

**食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会
第11回牛豚等疾病小委員会**

議事次第

日時：平成22年4月28日（水） 11：00～12：30

場所：農林水産省共用第16会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題

- （1）宮崎県における口蹄疫の発生について**
- （2）今後の対応について**
- （3）その他**

4 閉会

食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会
第11回牛豚等疾病小委員会 配布資料一覧

資料1-1 宮崎県における口蹄疫発生に関する経緯等について

1-2 防疫対応の流れ

1-3 発生及び疑い事例農場の位置関係

1-4 疫学関連データ

1-5 近年の各国での口蹄疫発生事例における防疫対応

資料2 今後の防疫対応について（案）

資料3 口蹄疫疫学調査チームについて

食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会
牛豚等疾病小委員会委員

【臨時委員】

岡部	信彦	国立感染症研究所感染症情報センター長
○ 田原	健	(社) 鹿児島県家畜畜産物衛生指導協会専務理事
寺門	誠致	共立製薬(株)取締役先端技術開発センター長

【専門委員】

明石	博臣	(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
今田	由美子	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所 動物疾病対策センター長
佐藤	英明	(国) 東北大学大学院農学研究科応用生命科学専攻教授
清水	実嗣	(株) 微生物化学研究所研究開発部長
津田	知幸	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所企画管理部長

(五十音順、敬称略、○：委員長)

宮崎県における口蹄疫疑似患畜に対する経緯等（1例目）について

1 農場の概要

場 所：宮崎県児湯郡都農町

飼養状況：肉用繁殖 繁殖母牛9頭、育成3頭、仔牛4頭

2 経緯

- 4月 9日 飼養牛の1頭(①)の口腔内にびらんを確認し家畜保健衛生所(以下「家保」)へ通報。家保による立入検査。同居牛に異常がないため経過を観察。
- 16日 同居牛の1頭(②)に発熱、食欲なし、口腔内にびらんを確認。別の1頭(③)に流涎を確認(発熱なし)。
- 17日昼 家保による立入検査。上記のほか、③の舌にびらんを確認。
- 19日午前 家保において、ブルータング、牛パラインフルエンザ、牛ウイルス性下痢、牛伝染性鼻気管炎、イバラキ病のPCRを実施し、いずれも陰性。動物衛生課に連絡。
- 19日午後 家保が当該農場に立入り検査。新たに同居牛1頭(④)で臨床症状を確認。口蹄疫の病性鑑定のため、検体採取。
- | | |
|---------------|---------------|
| 病変部(びらん部)ぬぐい液 | 3検体(臨床症状牛②～④) |
| 病変部(痂皮) | 1検体(臨床症状牛③) |
| 血液採取 | 16検体(全頭) |

3 対応状況

(1) 農場の検査

初発牛①：9日から発熱、食欲なし、流涎。口腔内にびらん確認。水疱なし。17日には治癒。

同居牛②：16日に発熱、食欲低下。口腔内にびらん確認。水疱なし。

同居牛③：16日に流涎、17日に発熱、食欲なし。口腔内にびらん確認

(2) 病性鑑定(動物衛生研究所において実施予定)

19日24:00：動物衛生研究所に検体到着。

- | |
|--------------------|
| PCR(実施予定：4～5時間) |
| 抗体ELISA(実施予定：48時間) |
| ウイルス分離(実施予定：7日間) |

20日早朝 PCRの結果判明。3検体(②～④)中3検体で陽性を確認。

(3) 現地の対応(宮崎県)

・当該農場：移動自粛、消毒槽設置、異常確認時の通報。

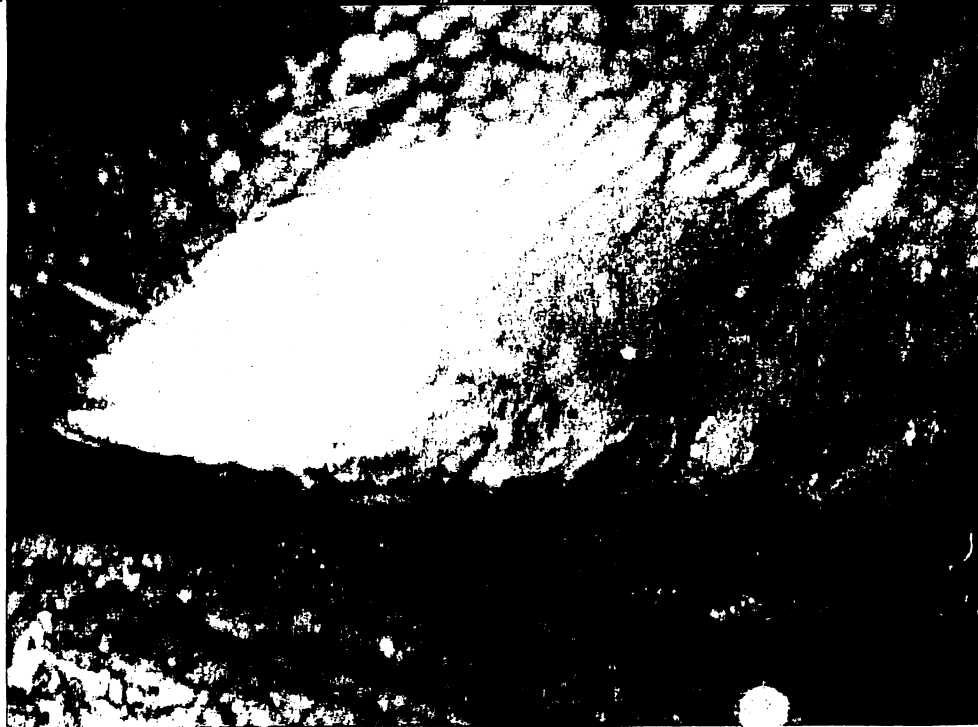
<出荷状況>

<周辺農場>

半径10km以内 牛504戸、10,077頭、豚108戸、130,033頭、水牛1戸、42頭

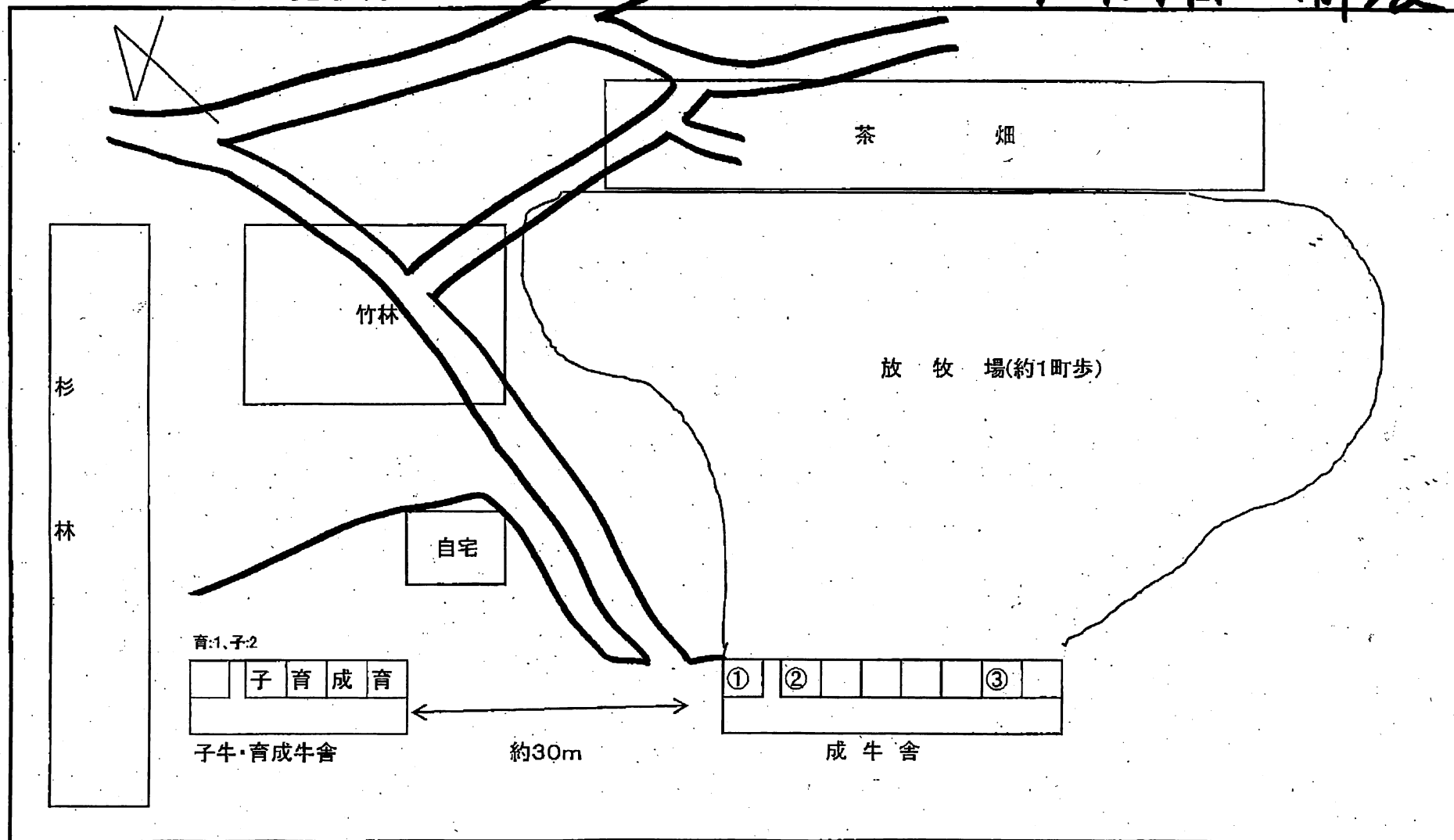
半径10～20km 牛605戸、16,991頭、豚50戸、52,622頭

宮崎1例目



牛舎の見取り図

1例目 都農



宮崎県における口蹄疫疑似患者（第2例目）に対する経緯等について

1 農場の概要

場 所：宮崎県児湯郡川南町

飼養状況：ホルスタイン種搾乳牛：26頭、乳牛育成牛：7頭、乳牛子牛：4頭、
（計65頭）和牛繁殖：3頭、和牛育成：5頭、和牛子牛：4頭、和牛肥育2頭、
F1肥育：14頭

2 経緯



3 対応状況

(1) 農場の検査



(2) 病性鑑定（動物衛生研究所において実施予定）

20日23:00 動物衛生研究所に検体到着。

PCR（実施予定：4～5時間）

抗体ELISA（実施予定：48時間）

ウイルス分離（実施予定：7日間）

21日早朝 PCRの結果判明。6検体（①～⑥）中6検体で陽性を確認。

(3) 現地の対応（宮崎県）

当該農場：移動自粛、消毒槽設置、異常確認時の通報。

<出荷状況>

調査中

<新たに増える周辺農場>

半径10～20km以内 牛約70戸、豚数戸（頭数については確認中）

宮崎2例目

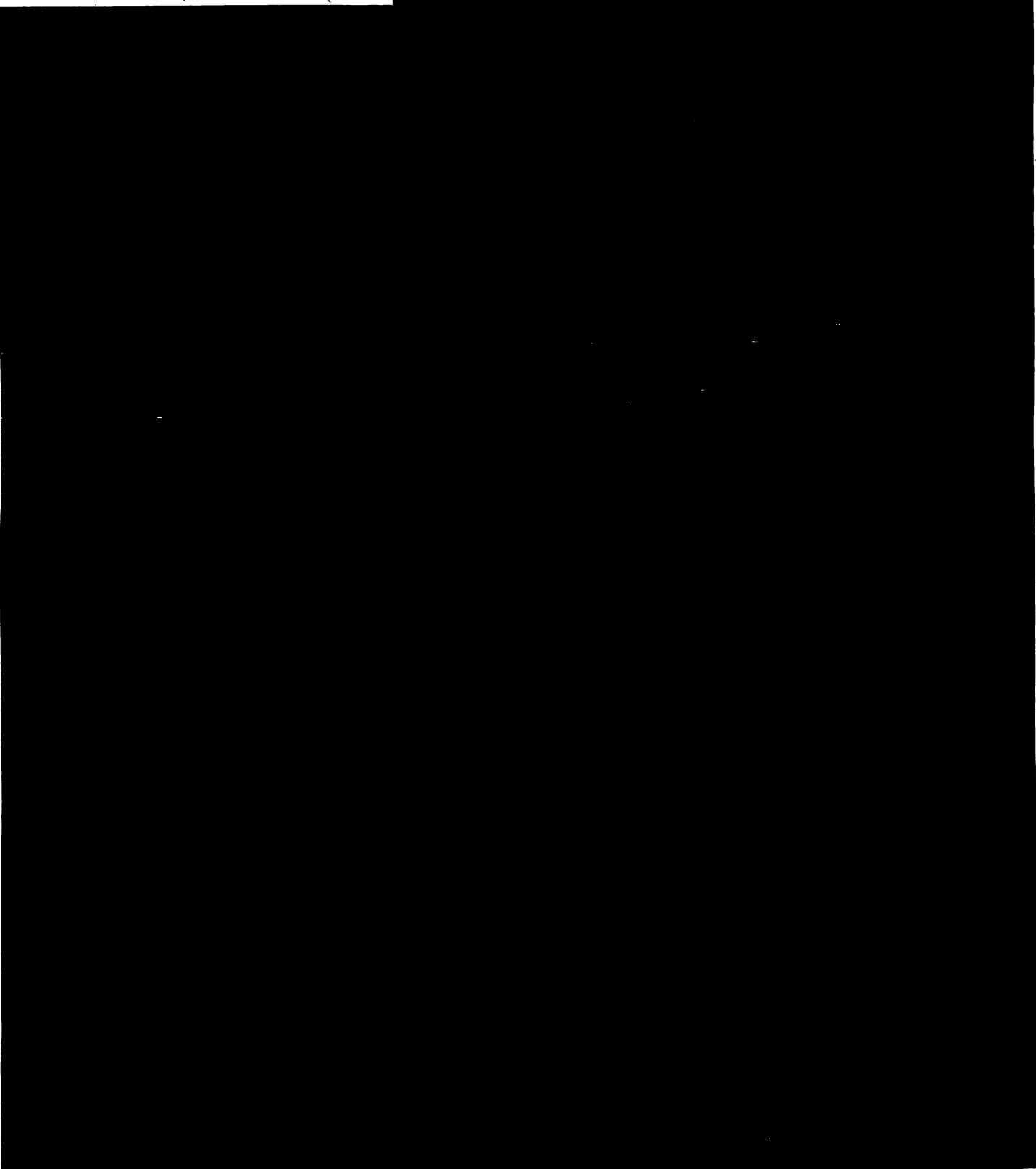
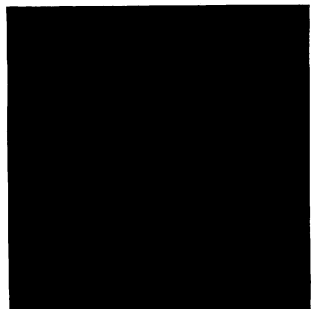


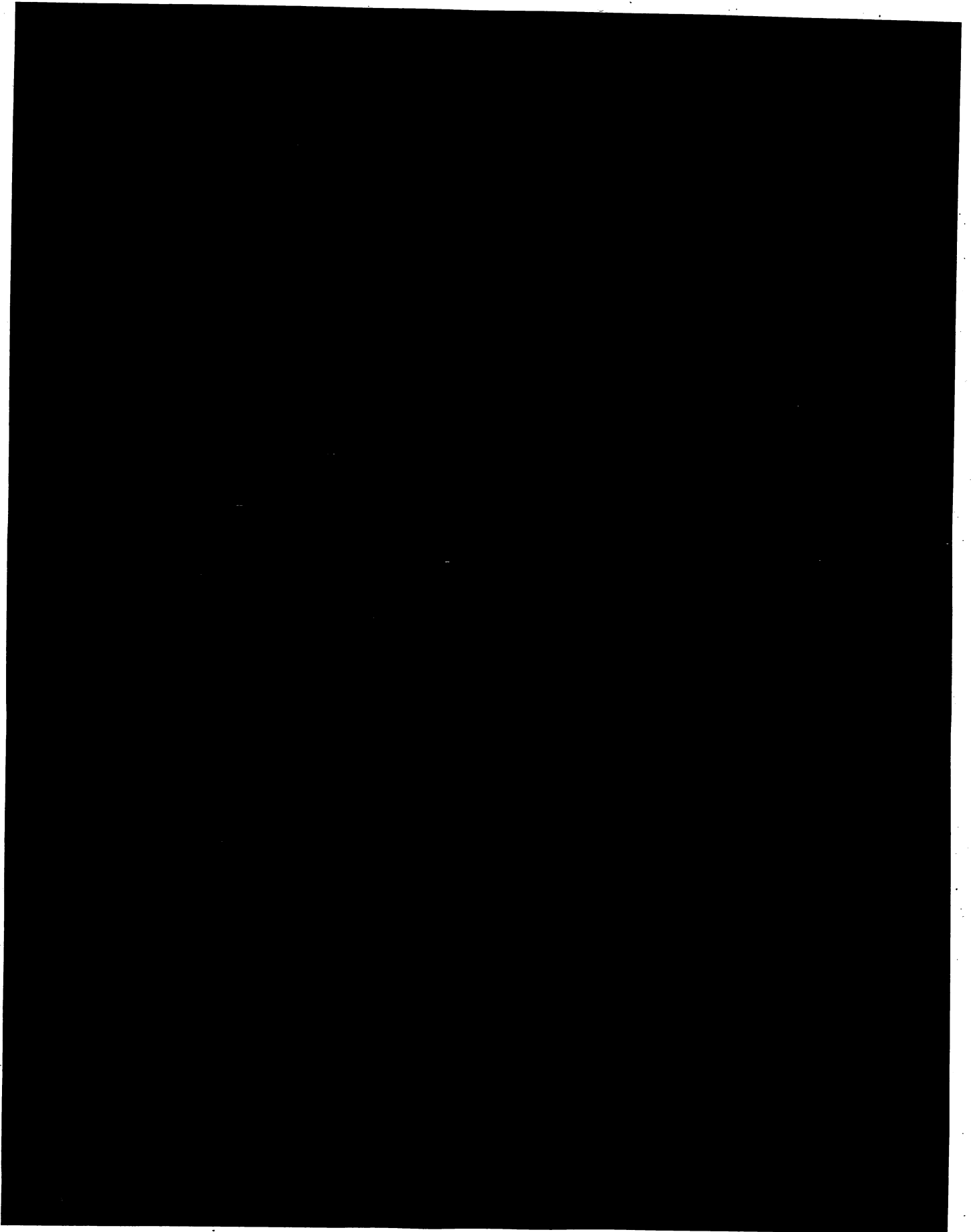
宮崎2例目



宮崎2例目







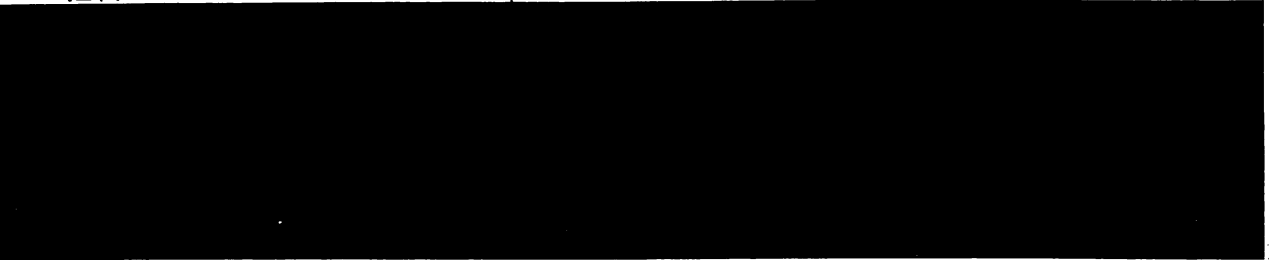
宮崎県における口蹄疫疑似患畜（第3例目）に対する経緯等について

1 農場の概要

場 所：宮崎県児湯郡川南町

飼養状況：肥育和牛：83頭（うち預託牛21頭）、F1肥育牛：35頭
（計118頭）

2 経緯



3 対応状況

(1) 農場の検査



(2) 病性鑑定（動物衛生研究所において実施予定）

21日14:45 動物衛生研究所に検体到着。

PCR（実施予定：4～5時間）
抗体ELISA（実施予定：48時間）
ウイルス分離（実施予定：7日間）

21日 PCRの結果判明。3頭中すべてで陽性を確認。

(3) 現地の対応（宮崎県）

当該農場：移動自粛、消毒槽設置、異常確認時の通報。

<出荷状況>





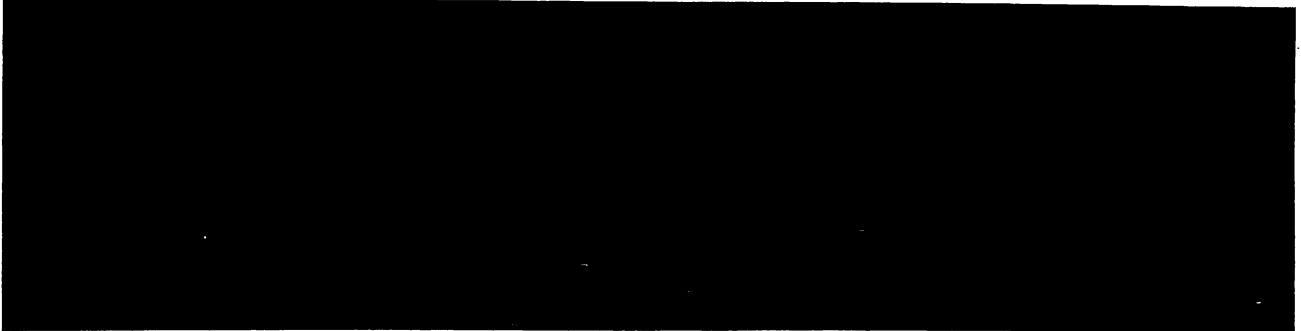
宮崎県における口蹄疫疑似患畜（第4例目）に対する経緯等について

1 農場の概要

場 所：宮崎県児湯郡川南町

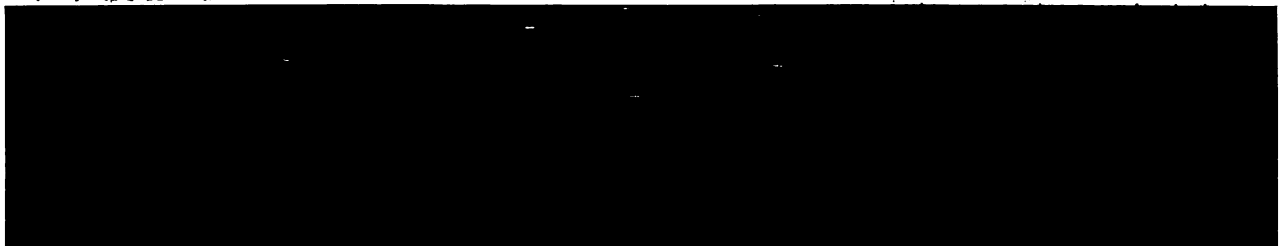
飼養状況：和牛繁殖：35頭、和牛育成：6、和牛子牛：24（計65頭）

2 経緯



3 対応状況

(1) 農場の検査



(2) 採材 ・発症牛3頭：病変部スワブ、血清

・無症状同居牛：血清

(3) 現地の対応（宮崎県）

当該農場：移動自粛、消毒槽設置、異常確認時の通報。

4 病性鑑定

4月21日 22:30 動衛研搬入

4月22日 17:30 PCR要請(2/3頭)



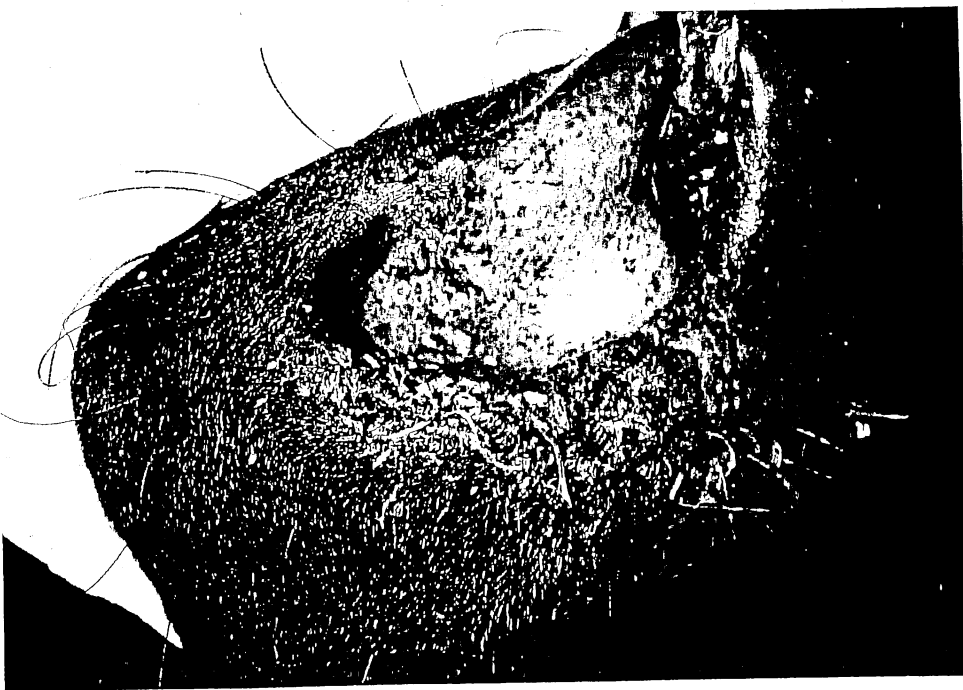
一週間程度 ウイルス分離実施中

5 発生後防疫対応

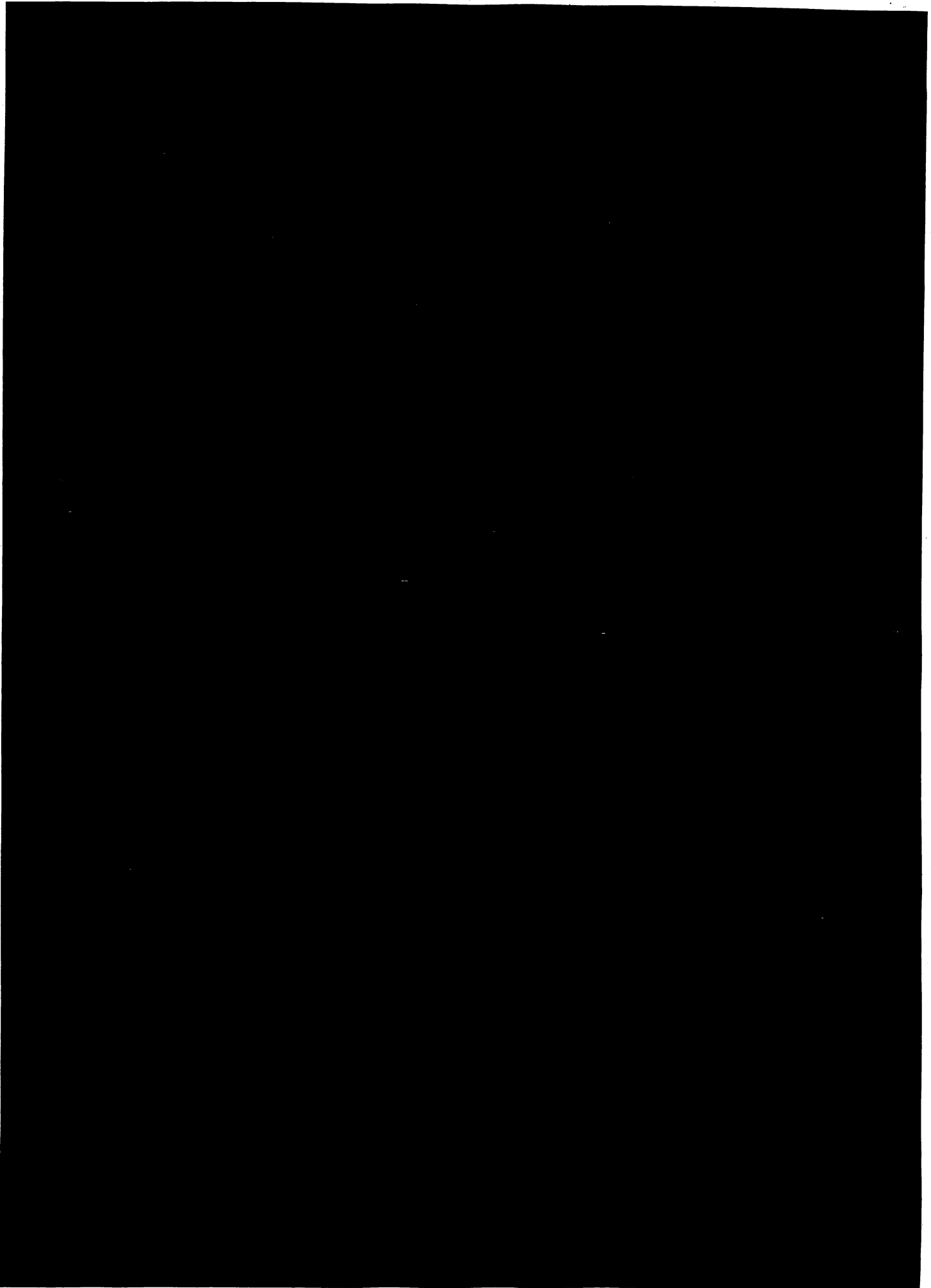
4月25日 15:20 殺処分終了

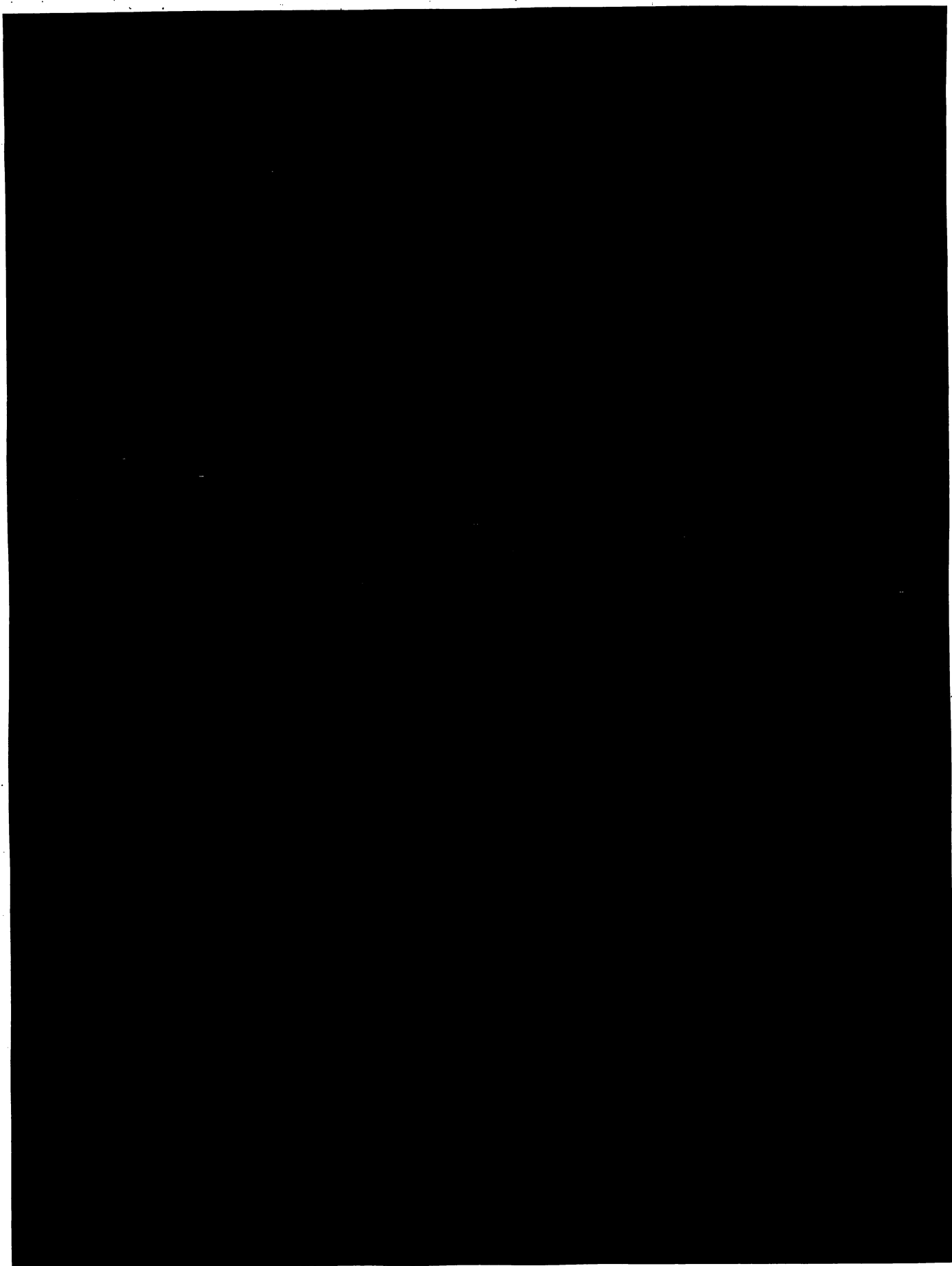
17:30 牛投入終了

4月26日 汚染物品埋却、農場消毒実施中



宮崎4例目





宮崎県における口蹄疫疑い事例(5例目)に対する経緯等について

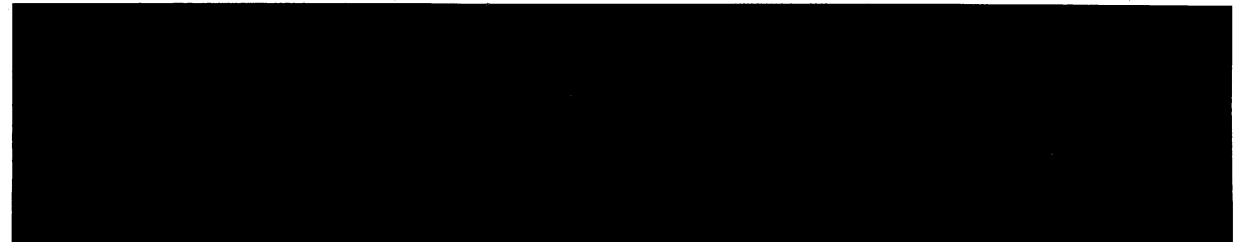
1 農場の概要

- (1) 所有者: [REDACTED]
(2) 住所: 宮崎県宮崎県児湯郡川南町 [REDACTED]
(3) 飼養状況: 肉繁・肥育(和牛親44、和牛育成1、和牛子24、肥育6 計75)

2 経緯



3 異常家畜



4 病性鑑定

- (1) 検体
・血清 8頭8検体(有症状牛3、無症状同居牛2、流産牛1)
・病変部 3頭3検体
(2) 搬入 4月22日 22:30夜
(3) 判定 4月23日 15:30

5 関連情報・調査事項



6 発生後対応

- 4月25日 15:20 殺処分終了
17:30 埋却終了
4月26日 予定 汚染物品処理、消毒 予定



宮崎5例目

宮崎5例目



宮崎県における口蹄疫疑い事例(6例目)に対する経緯等について

1 農場の概要

- (1) 所有者: [REDACTED]
(2) 住所: 宮崎県宮崎県児湯郡都農町 [REDACTED]
(3) 飼養状況: 水牛42頭([REDACTED])、豚2頭

2 経緯

- 3月26日 搾乳牛2頭に、発熱、乳量低下が見られたので獣医師が診療。数日間に、同一の症状を呈す牛が増加。流涎、口内炎、乳房皮膚の剥離が見られる牛もいた。
- 3月31日 獣医師からの届出で家保が立入調査。搾乳牛、雄牛に症状が拡大。一部食欲廃絶、泌乳停止。一部に下痢。この際、口蹄疫を疑う症状は認めず、畜主、獣医師からの報告もなかったため、3頭の血液、鼻腔スワブ、糞便を採取し、ウイルス・細菌・寄生虫検査を実施。
- 4月 5日 獣医師から聴取り「ほとんどの牛が解熱したが一部の牛の乳房に痂皮。アレルギーを疑っている」
- 4月14日 家保立入。子牛にも流涎、発熱。回復した成牛もいるが、乳質低下(脂肪分現象)、被毛粗剛も見られる。
- 4月21日 1例目農場3.5km圏内であることから、家保が立入調査。全頭回復し、症状が見られないが、3月31日の聴取り内容と一部異なる内容があり、口蹄疫を疑う症状があった可能性が認められた。
- 4月22日 家保が立入調査。5頭の血液を採取。臨床的に異常なし。
以上の状況から、3月31日に採材した鼻腔スワブとあわせ動物衛生研究所に病性鑑定依頼を決定。
- 4月22日 夜 動物衛生研究所搬入予定
- 4月23日 15:30 PCR陽性(1/3頭)

3 異常家畜 [REDACTED]

4 病性鑑定

(1) 検体

- ・血清 5頭5検体(無症状牛5)
- ・病変部 3頭3検体(3月31日採材の鼻腔スワブ)

- (2) 搬入 4月22日 夜
(3) 判定 4月23日 15:30

5 関連情報・調査事項

- (1) 中国産飼料使用なし
(2) 平成21年5月、オーストラリアから5頭輸入。家保が着地検査実施
(3) 1例目農場から600m
(4) [REDACTED]
(5) 周辺に野生動物(シカ、イノシシ)出現、観光客の接近多い。

6 発生後対応

- 4月25日 17:50 殺処分、汚染物品埋却終了
4月26日 予定 消毒

道路の
入口

6例目

水牛

配置図

牧場

育成2頭

プール

子牛舎

牛舎

広場

検査場

搾乳

倉庫

豚2頭

店舗兼
製造場

休憩室
事務所
車庫

育成
5頭

私道

敷地
入口

乾草
倉庫

踏込槽

宮崎県における口蹄疫疑い事例(7例目)に対する経緯等について

1 農場の概要

- (1) 所有者: [REDACTED]
- (2) 住所: 宮崎県宮崎県児湯郡川南町 [REDACTED]
- (3) 飼養状況: 肉用肥育(肥育584、子牛141 計725)

2 経緯

- 4月8日頃 道路側牛舎(3棟中)に食欲不振
- 4月23日 夕 流涎、口腔内潰瘍・びらんが4~5頭
- 4月24日 朝 家保から農場に立入り検査事前連絡
(2例目と飼料運搬車を介した疫学関連農場だったため)
担当獣医師が電話をかわり、異常牛の通報
- 11:00 立入り調査。3棟とも流涎散見。鼻腔・鼻鏡の潰瘍・びらんが4~5頭。
蹄に異常なし。5頭について病変部スワブ及び血清を採材。
- 13:00 立入り終了。
- 4月25日 09:00 PCR陽性(4/5頭)。疑似患畜決定。
全頭抗体陽性

3 異常家畜

4 病性鑑定

- (1) 検体 血清・病変部スワブ 各5検体(5頭分) * 全て発症牛
- (2) 搬入 4月24日夜
- (3) 判定 4月25日09:00

5 関連情報・調査事項

- (2) 担当獣医師は児湯の系列農場全て(児湯1~13農場)を担当

6 発生後対応

- 4月25日 12:00 プレスリリース
埋却場所試掘
- 4月26日 評価・殺処分開始

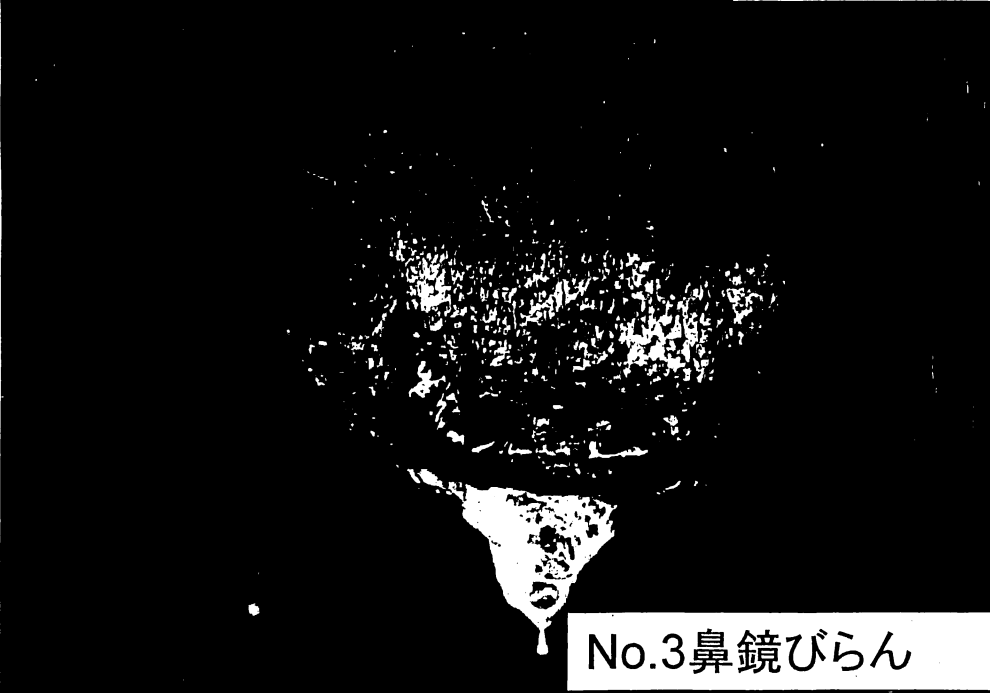
宮崎7例目



No.1鼻汁



No.2口蓋びらん



No.3鼻鏡びらん



No.3口腔内びらん

宮崎7例目



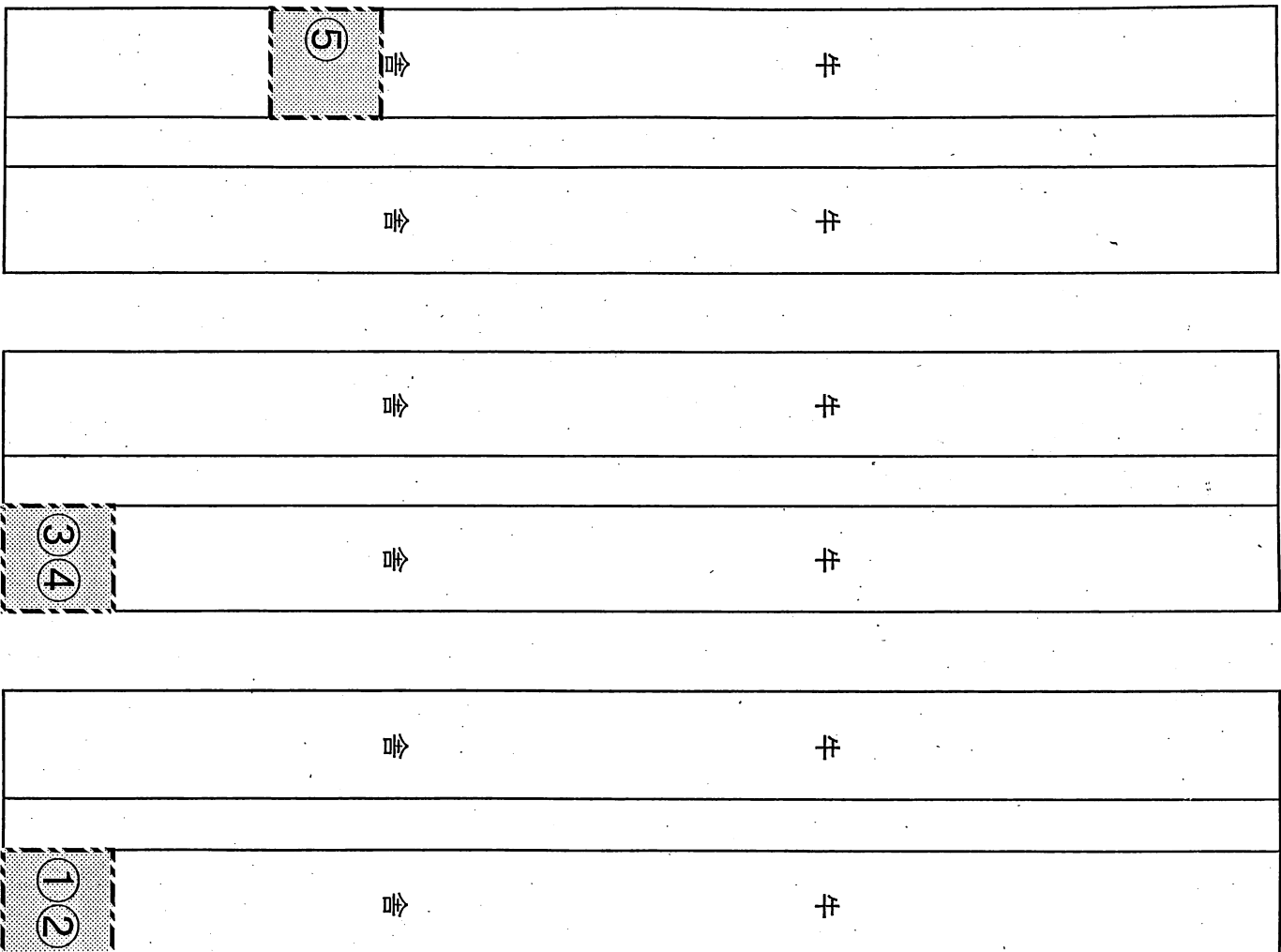
農場内牛 流涎

道路

7. 131 (2)

道

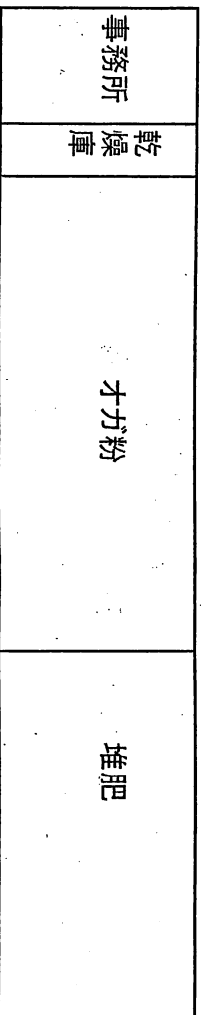
路



出入口

飼料タンク
○○○○

飼料タンク
○○○

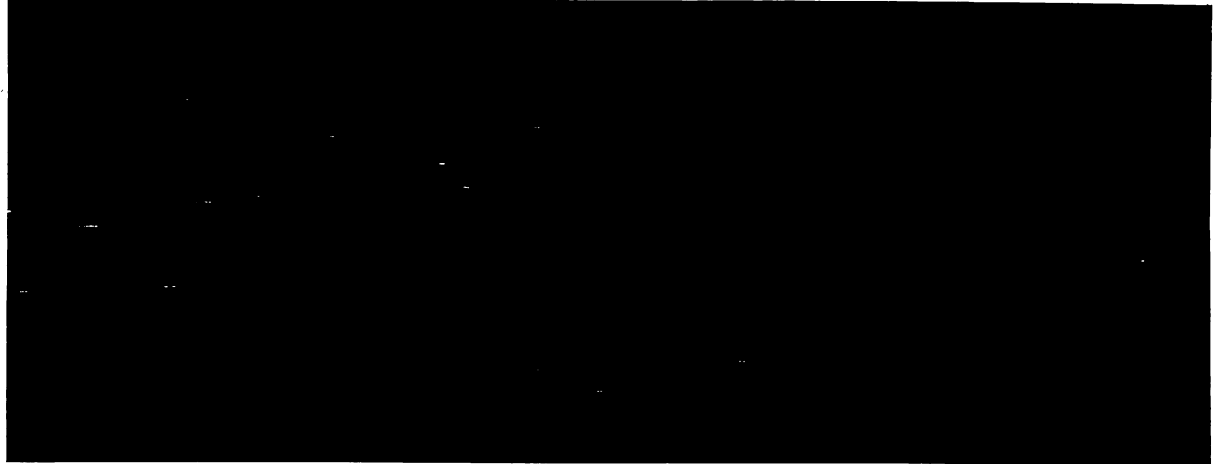


宮崎県における口蹄疫疑似事例(8例目)の経緯等について

1 農場の概要

- (1) 所有者: [REDACTED]
- (2) 住所: 宮崎県宮崎県児湯郡川南町^{こゆかわみなみちょう} [REDACTED]
- (3) 飼養状況: 肉用肥育(肥育867頭、子牛152頭 計1,019頭)

2 経緯



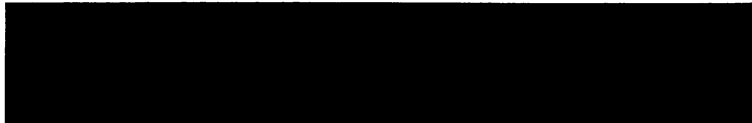
3 病性鑑定

27日、動物衛生研究所に検体を搬入。

- (1) 検体 発症牛5頭(内訳: 血清5頭、病変部スワブ4頭、舌のびらん組織1頭分)
- (2) 判定 4月28日06:00 5検体中5検体でPCR陽性

4 農場の概要(飼養背景・疫学的情報)

- (1) 7例目と同一系列の農場



- (4) [REDACTED]と同じ飼料を給与

川南町 H22.4.27

8例目

農場内牛 流涎

No.1 流涎

No.3 舌背面びらん

No.5 舌背面びらん

宮崎県における口蹄疫疑い事例(9例目)に対する経緯等について

1 農場の概要

- (1) 所有者: [REDACTED]
- (2) 住所: 宮崎県えびの市 [REDACTED]
- (3) 飼養状況: 第1農場 肥育244頭 (発生農場)
第2農場 肥育 33頭 (約50m西側)

2 経緯

[REDACTED]

3 病性鑑定

27日、動物衛生研究所に検体搬入。

- (1) 検体: 臨床症状(流涎)を示した牛 9頭(口腔内スワブ9頭分、血清7頭分)
- (2) 結果: 4月28日 6:00 PCR陽性(9頭中、2頭プール4検体陽性、1頭1検体陰性)

4 検体採取時の措置事項

開業獣医師への巡回自粛。

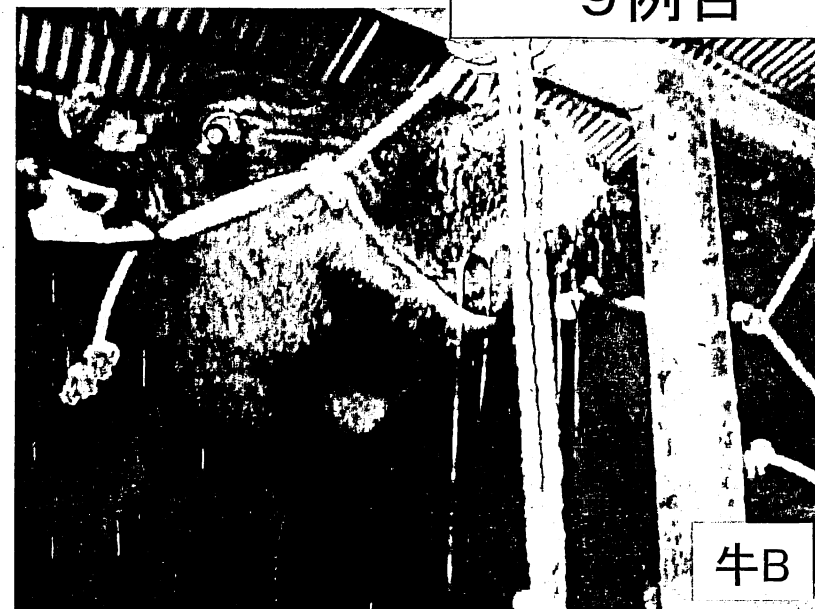
5 関連情報・調査事項

[REDACTED]

(3) 野生生物

・アナグマ、ネズミ、カラス、ハト。 [REDACTED]

9例目

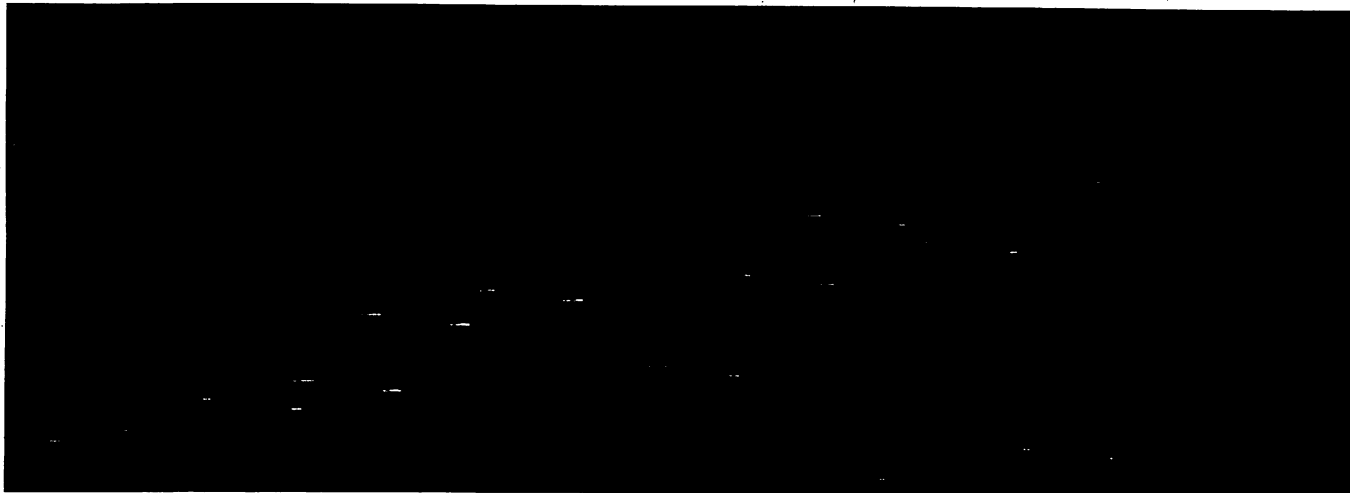


宮崎県における口蹄疫疑い事例(10例目)の経緯等について

1 農場の概要

- (1) 所有者：宮崎畜産試験場 川南支場
- (2) 住所：宮崎県児湯郡川南町大字川南21986
- (3) 飼養状況：豚 486頭（ほか、鶏）

2 経緯



3 病性鑑定

27日、動物衛生研究所に検体を搬入。

- (1) 検体：鼻腔スワブ5頭分、血液10頭分
- (2) 結果：4月28日 06:00 5検体中5検体でPCR陽性、

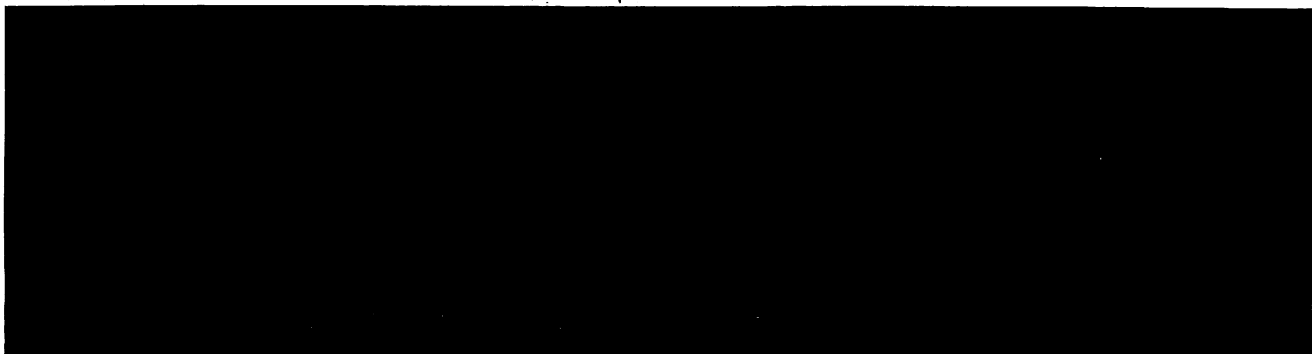
4 農場の概況（飼養背景・疫学的情報、試験場獣医師より聞き取り）



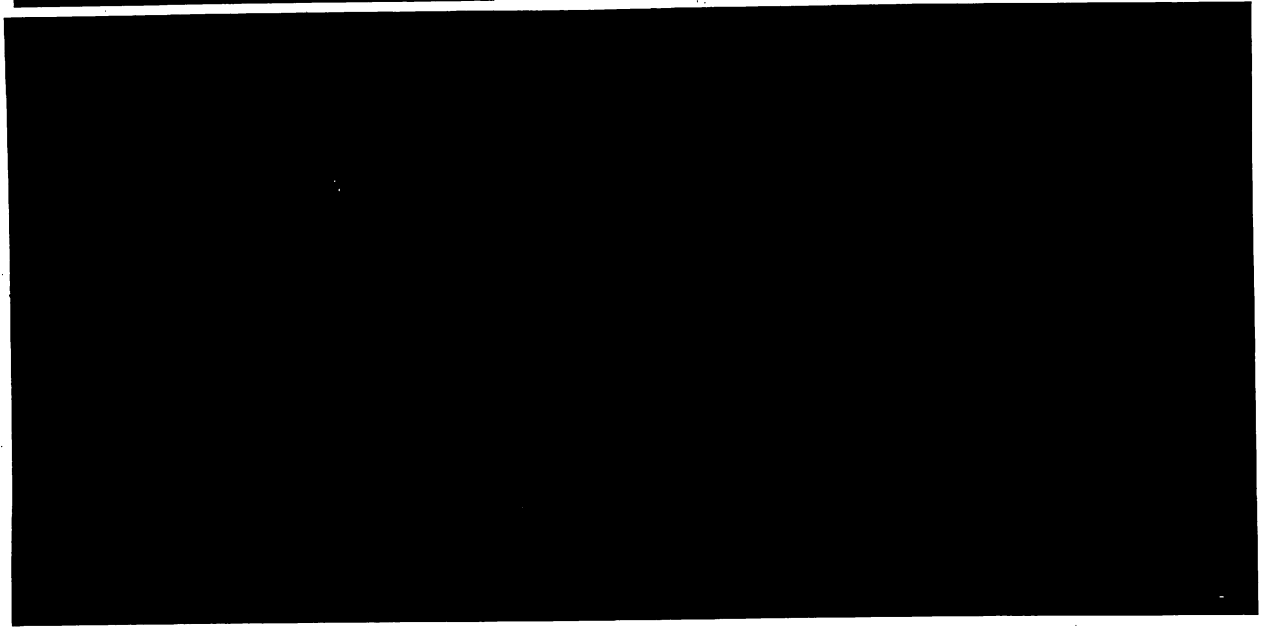
- ・4月22日、開放畜舎から育成豚(繁殖候補)を現在の畜舎へ移動。



- ・4月の出荷状況（9回、廃用58頭。直近は4月16日に1頭。  ）



カラスが飼料目当てに集まる。



・農場周囲にトビ、カラスが多い。



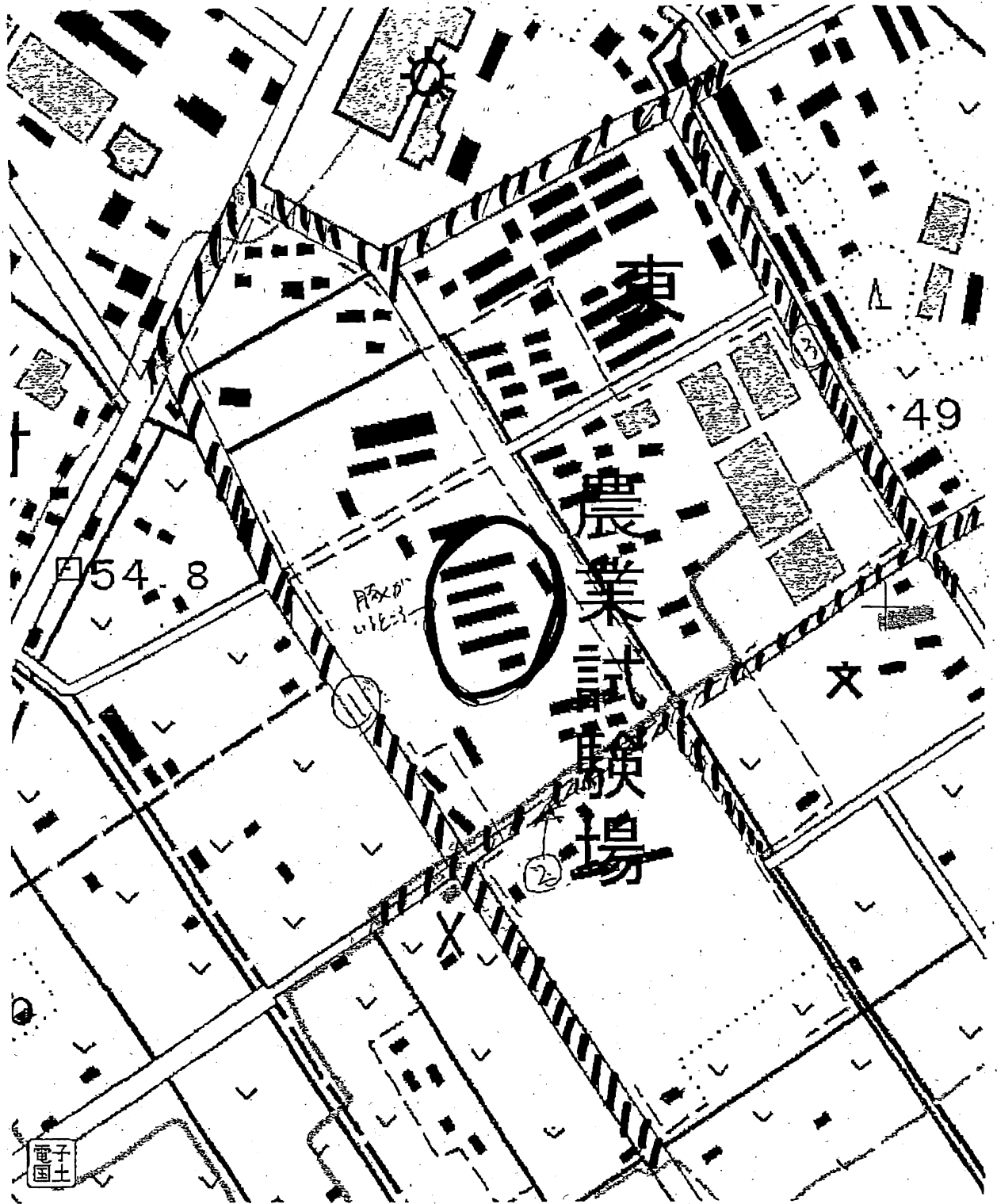
第10例目 口蹄疫疑似患畜症例（児湯郡川南町、豚）



鼻部の水疱



蹄の病変



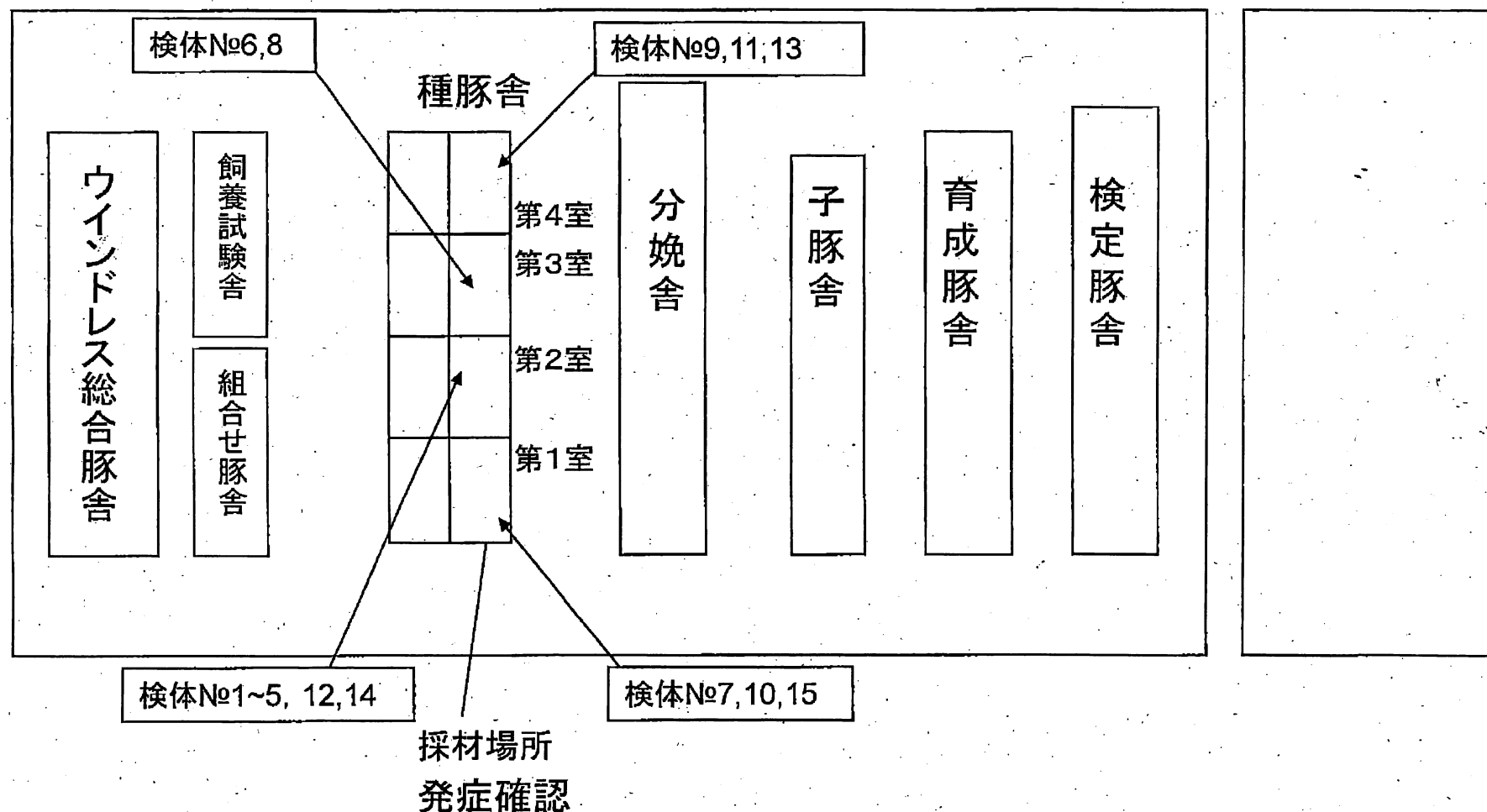
斜線部が一般車が通行できること

10例目

10月13日

養豚科

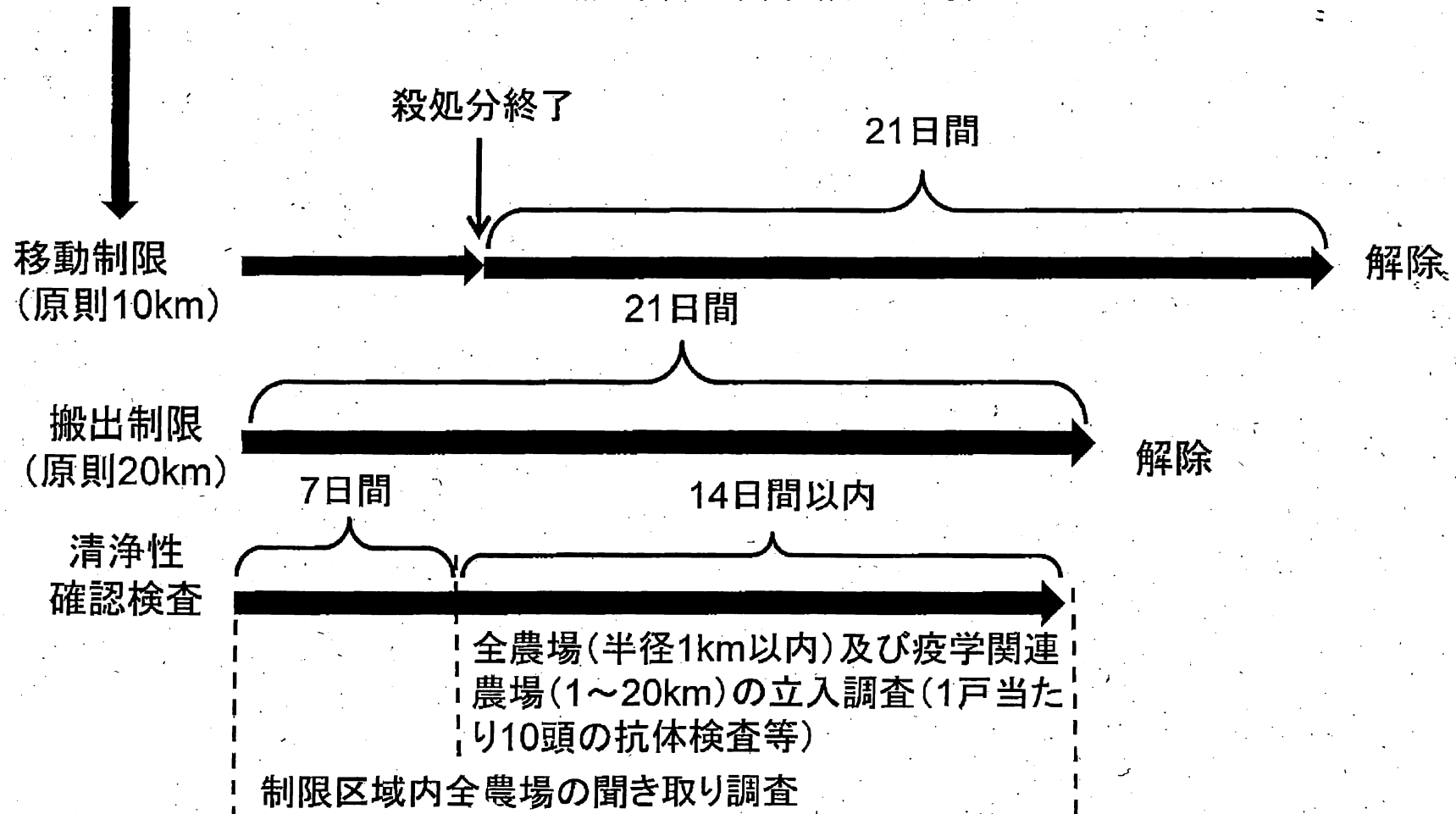
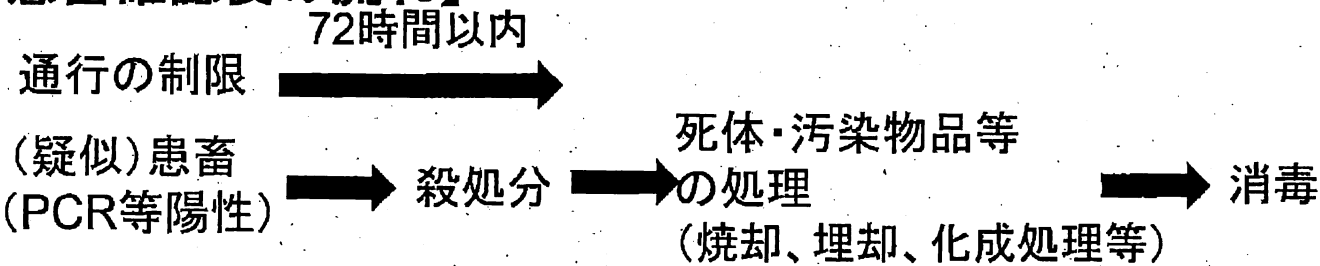
環境衛生科



防疫対応の流れ

【(疑似)患畜確認後の流れ】

発生農場

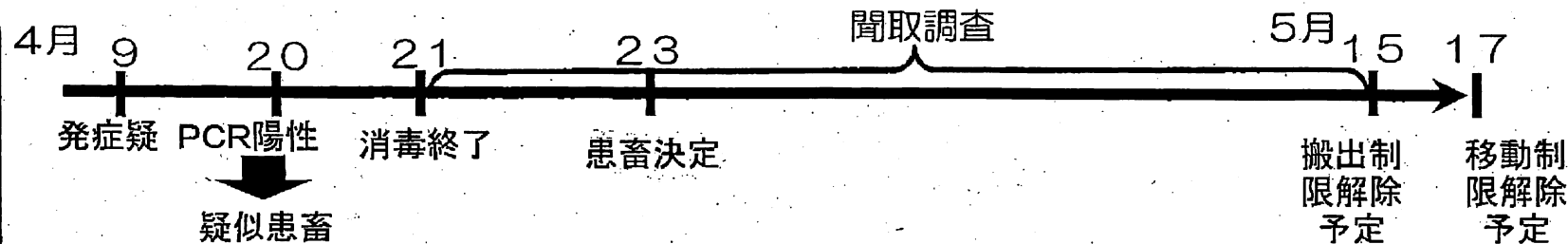


周辺農場

防疫対応のスケジュール

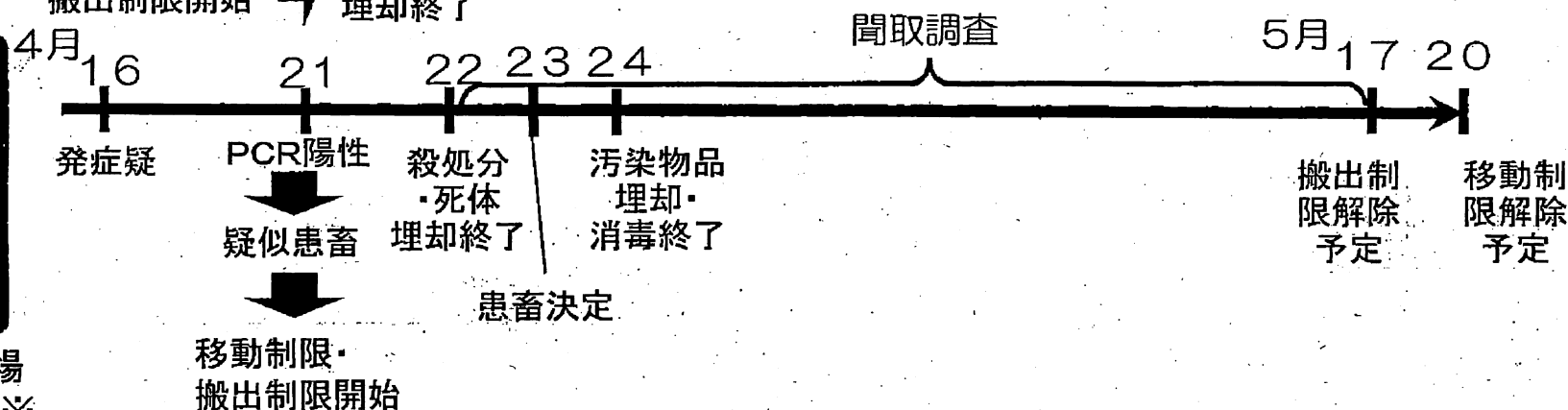
第1例

周辺農場
約1,300戸



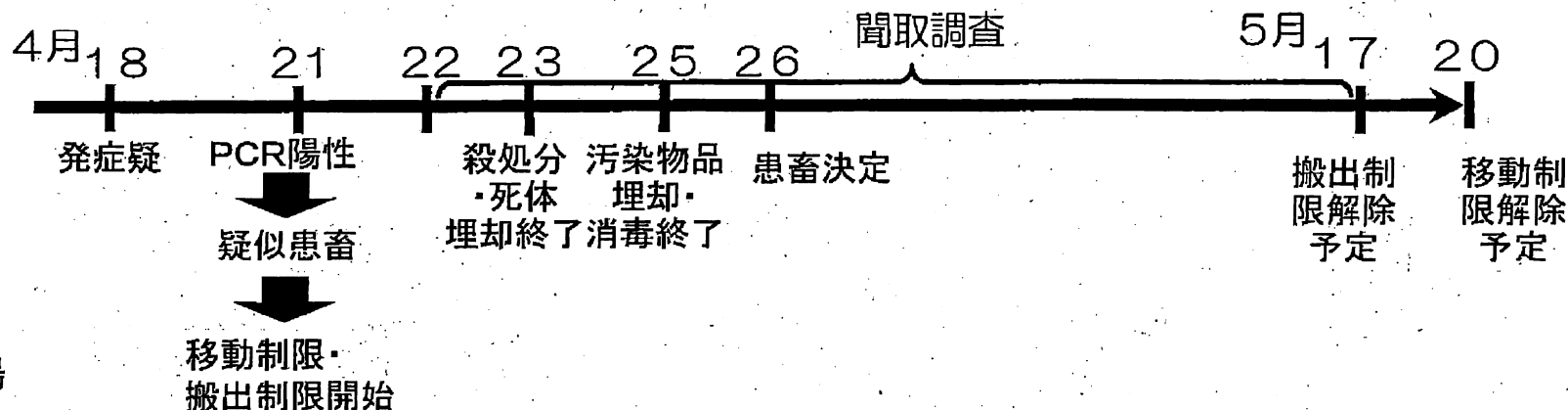
第2例

周辺農場
約70戸※



第3例

周辺農場
0戸※

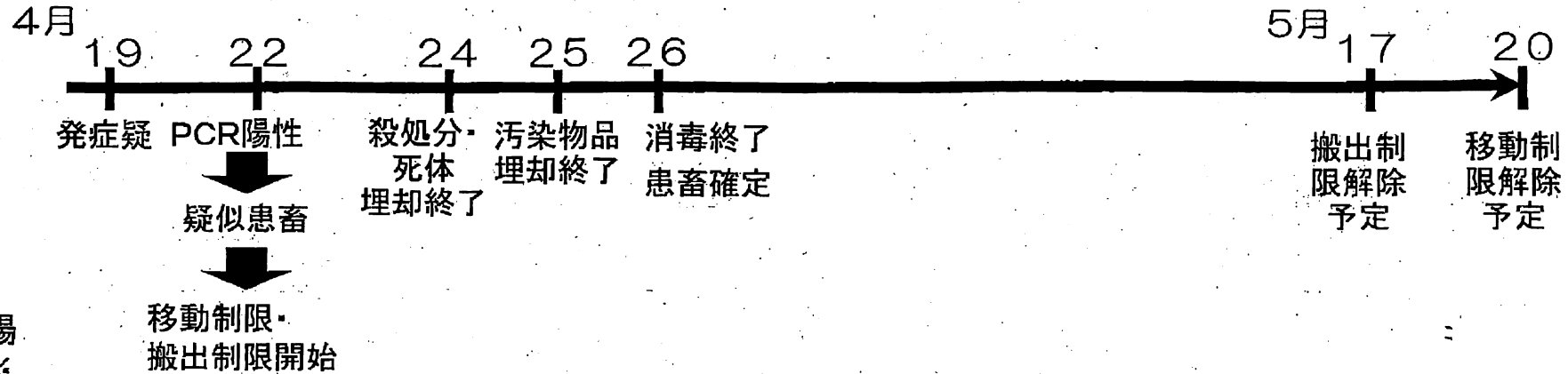


※新たに制限区域内に含まれた農場のみ

防疫対応のスケジュール

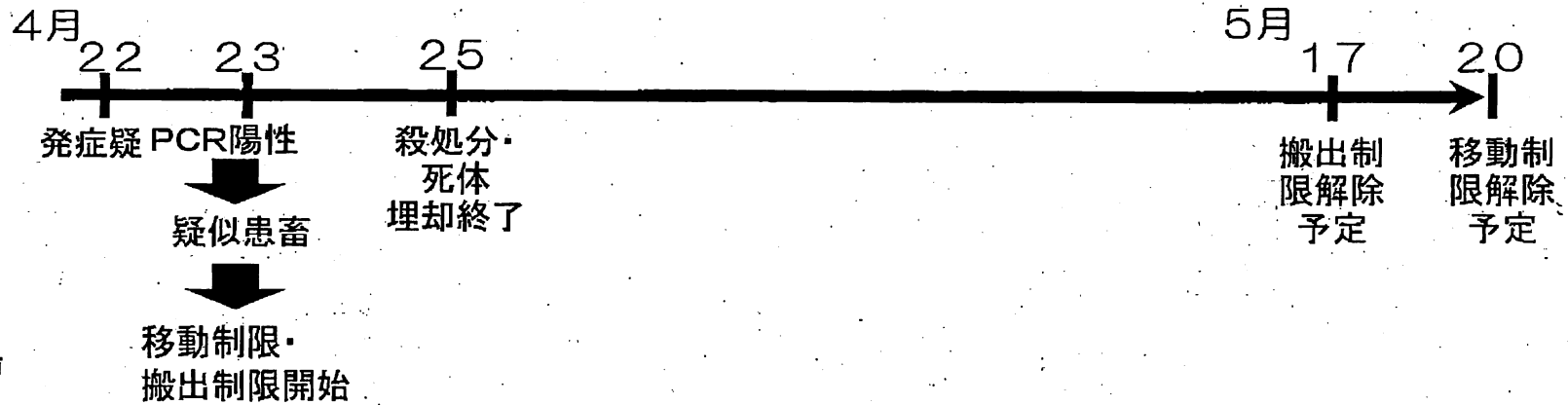
第4例目

周辺農場
約0戸※



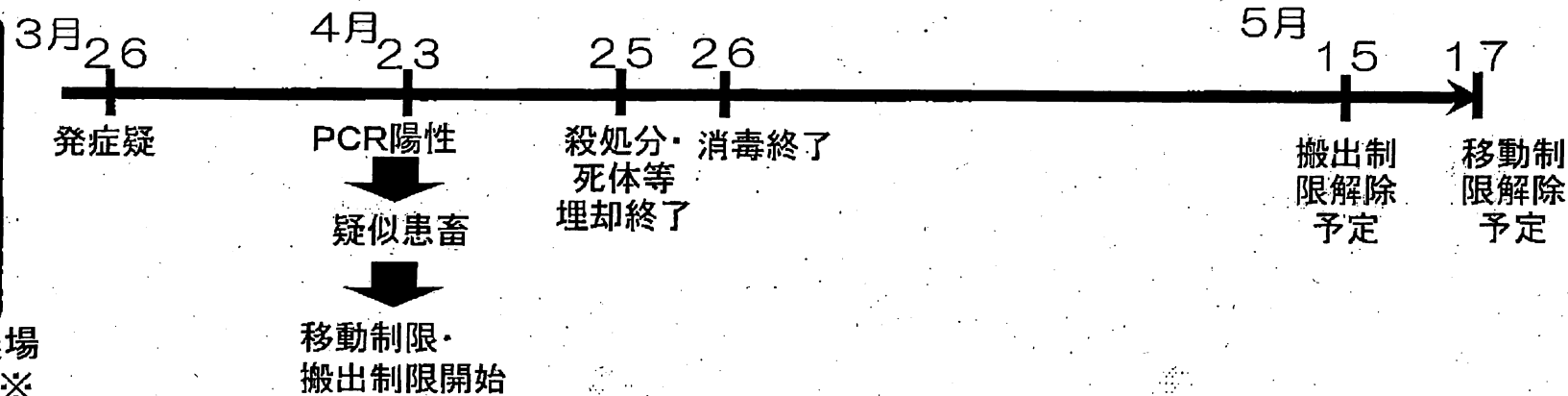
第5例目

周辺農場
約0戸※



第6例目

周辺農場
約0戸※

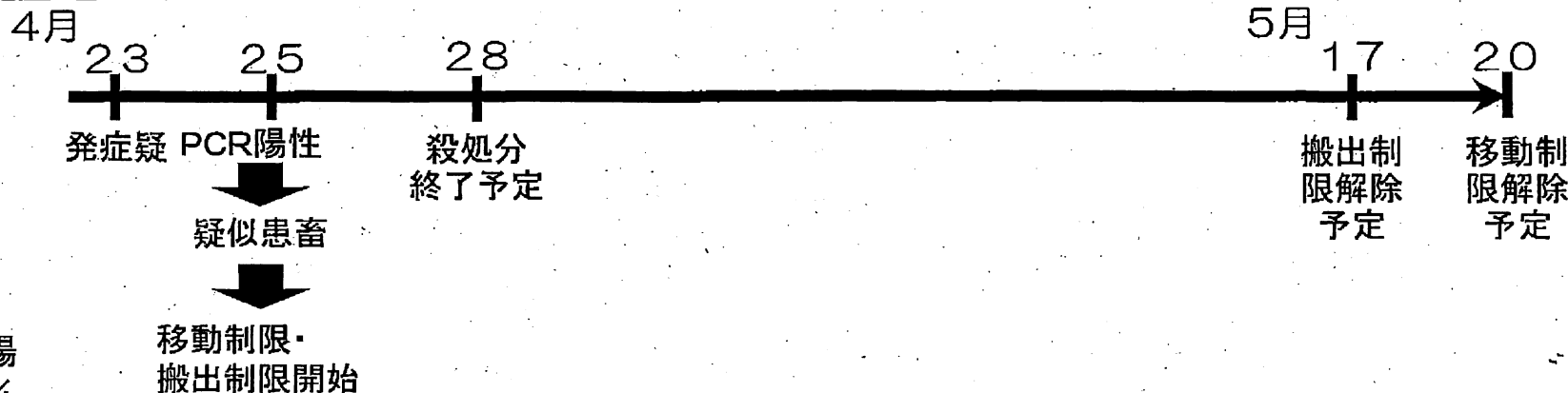


※新たに制限区域内に含まれた農場のみ

防疫対応のスケジュール

第7例

周辺農場
約0戸※



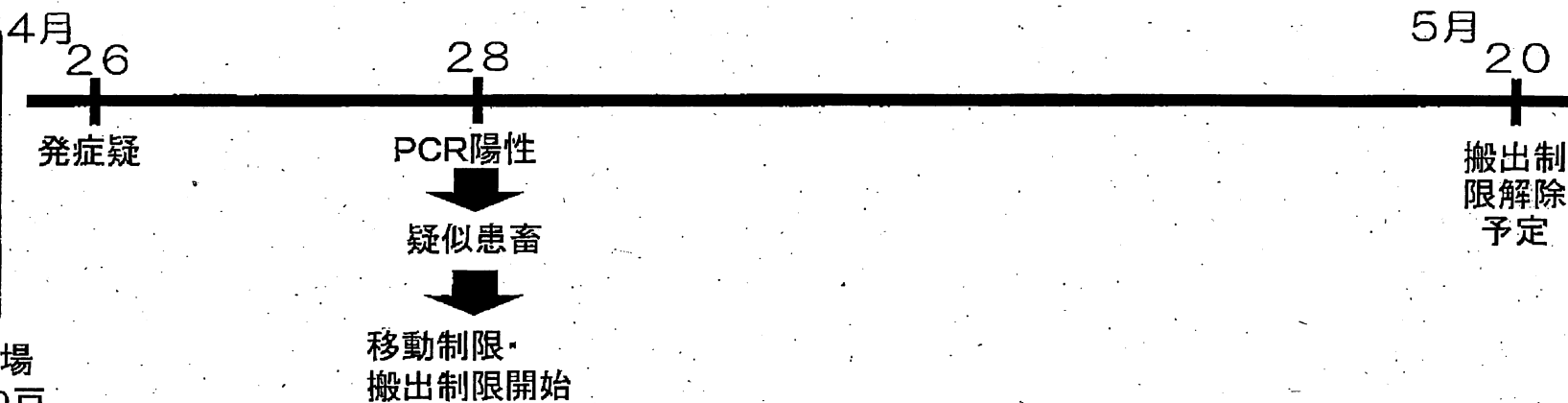
第8例

周辺農場
確認中



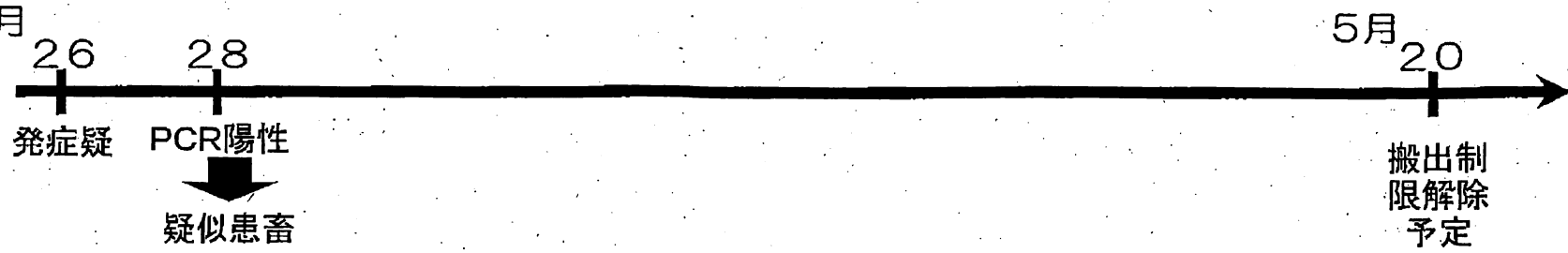
第9例

周辺農場
約2800戸



防疫対応のスケジュール

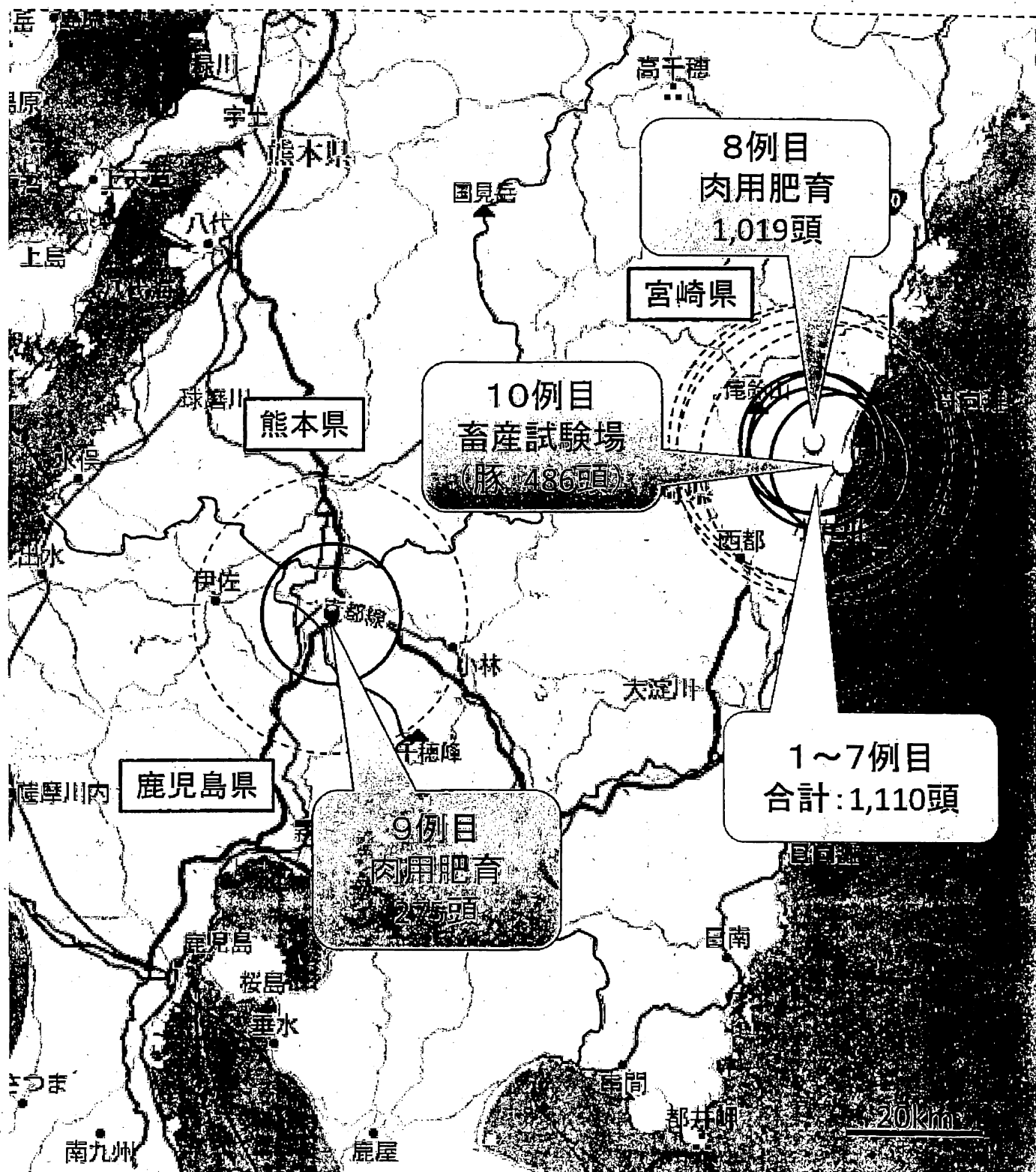
第一の例

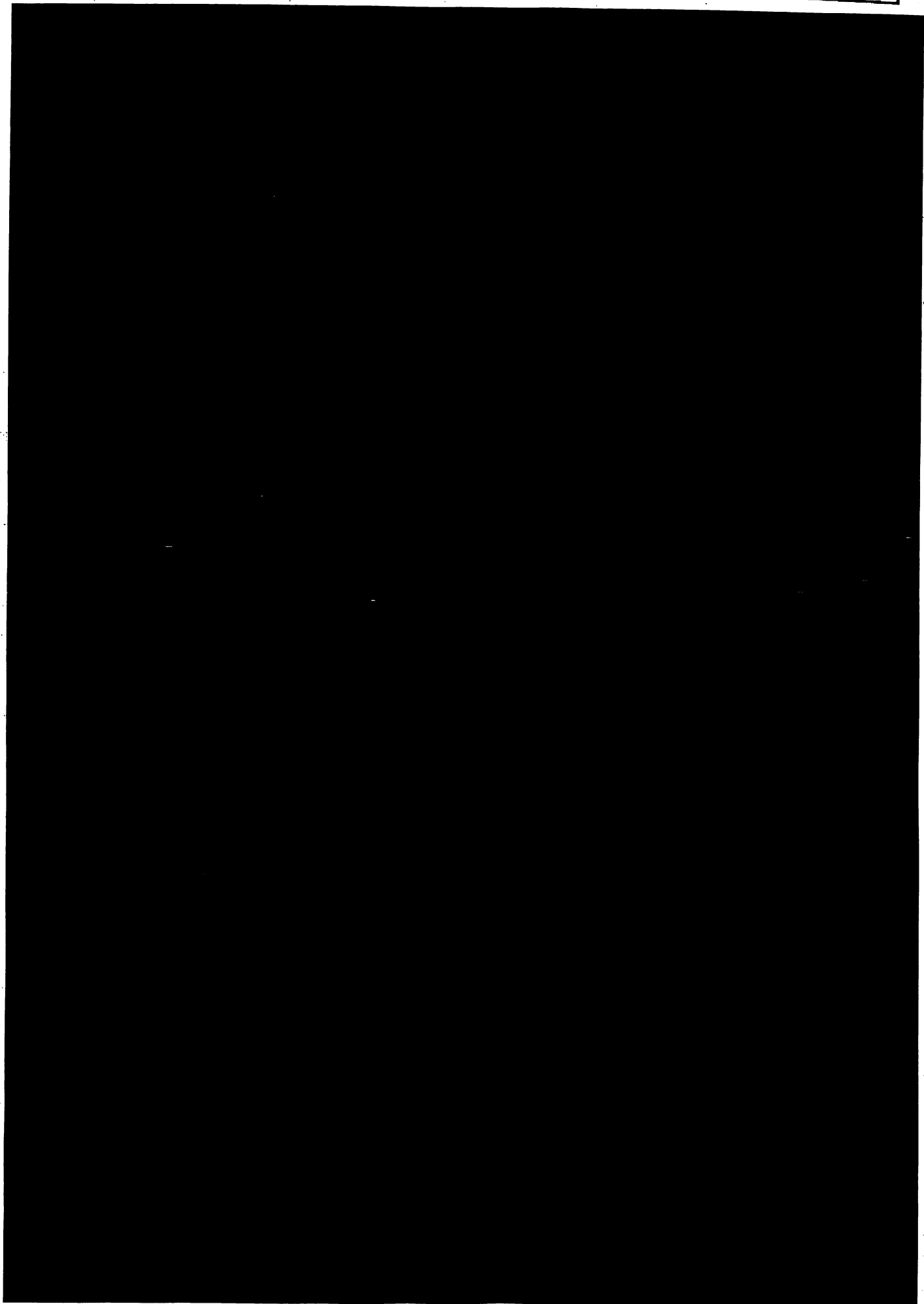


周辺農場
確認中

口蹄疫の発生状況について

平成22年4月27日





厳秘

1例目～7例目までの農場に関する疫学関連情報の比較(4/26 13:00現在)

	子牛等の出荷	獣医師 人工受精師等	飼料・敷料 (運搬車両含む)	ふん尿の処理方法 (搬出の有無、搬出先等運搬車両含む)
1例目 (都農町:) 繁殖経営				
2例目 (川南町:) 乳肉複合経営				
3例目 (川南町:) 肥育経営				
4例目 (川南町:) 繁殖経営				
5例目 (川南町:) 繁殖経営				

・飼料輸送車両(7例目と同一)

厳秘

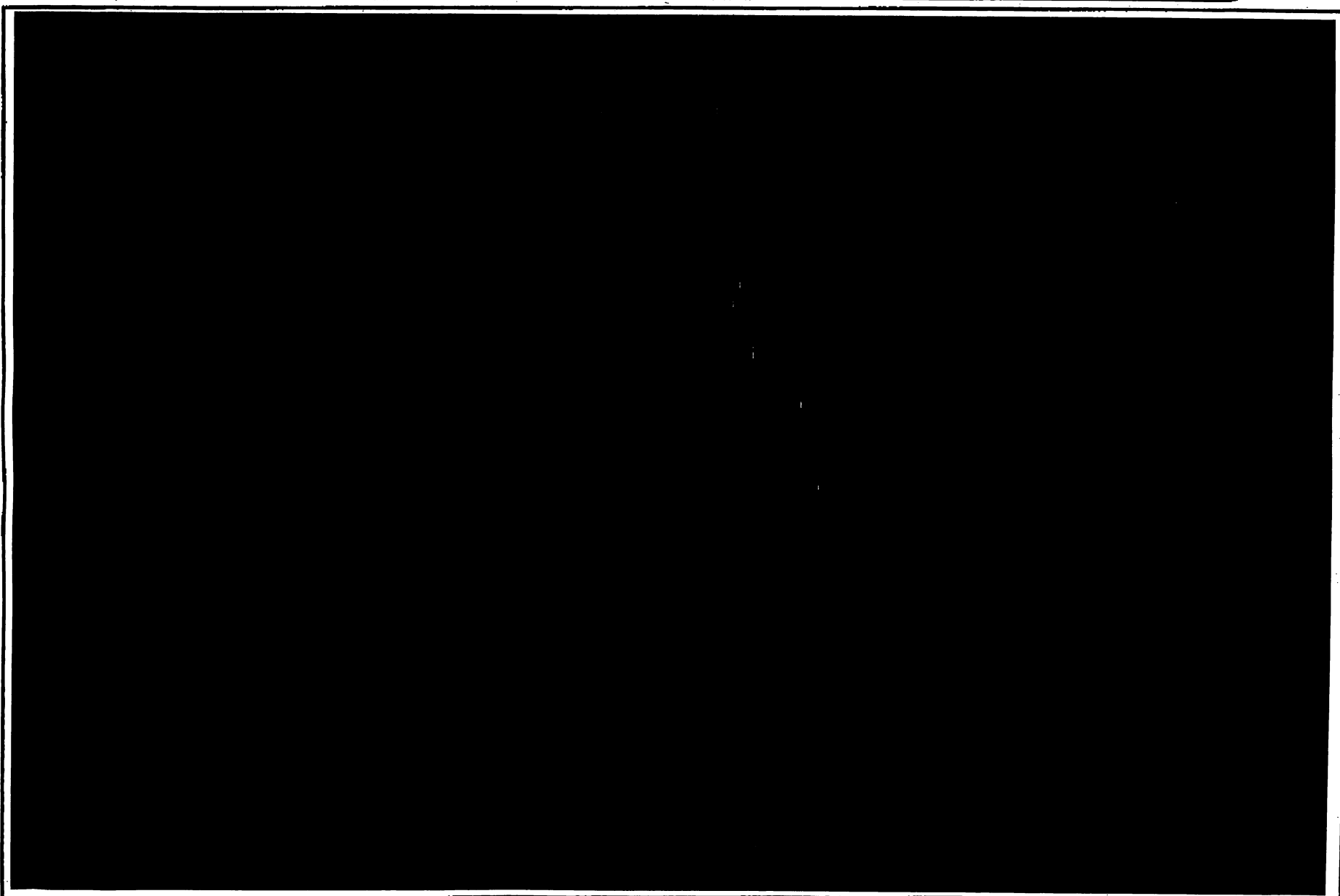
1例目～7例目までの農場に関する疫学関連情報の比較(4/26 13:00現在)

	子牛等の出荷	獣医師 人工受精師等	飼料・敷料 (運搬車両含む)	ふん尿の処理方法 (搬出の有無、搬出先等運搬車両含む)
6例目 (都農町:) 水牛・豚				
7例目 (川南町:) 肥育経営				
			・飼料の運送車両が2例目と同一	

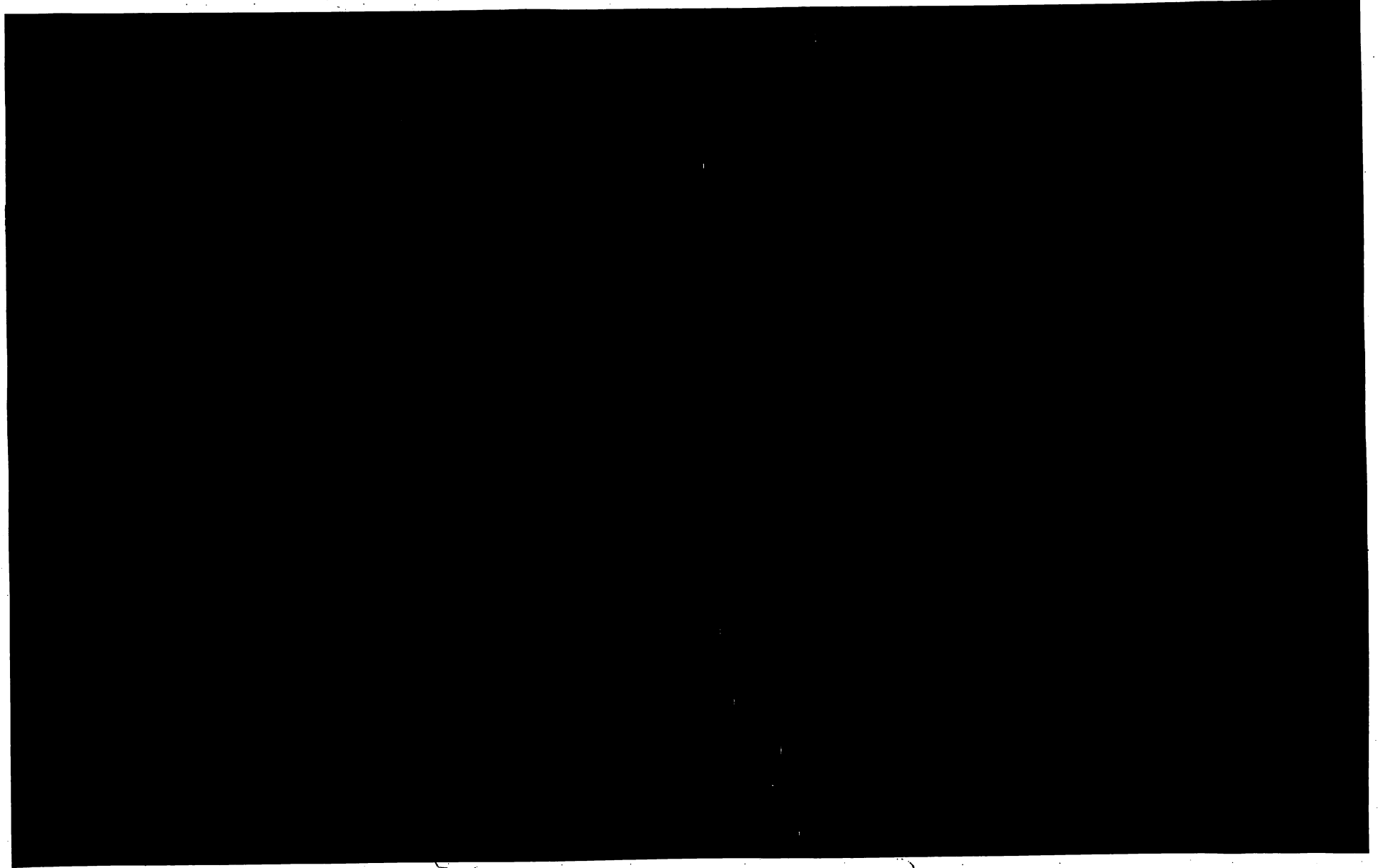
1例目～6例目までの疫学関連農場数(4/23 24:00現在)

	子牛等の出荷	獣医師 人工受精師等	飼料・敷料 (運搬車両含む)	ふん尿の処理方法 (搬出の有無、搬出先等運搬車両含む)
1例目 (都農町:) 繁殖経営				
2例目 (川南町:) 乳肉複合経営				
3例目 (川南町:) 肥育経営				
4例目 (川南町:) 繁殖経営				
5例目 (川南町:) 繁殖経営				

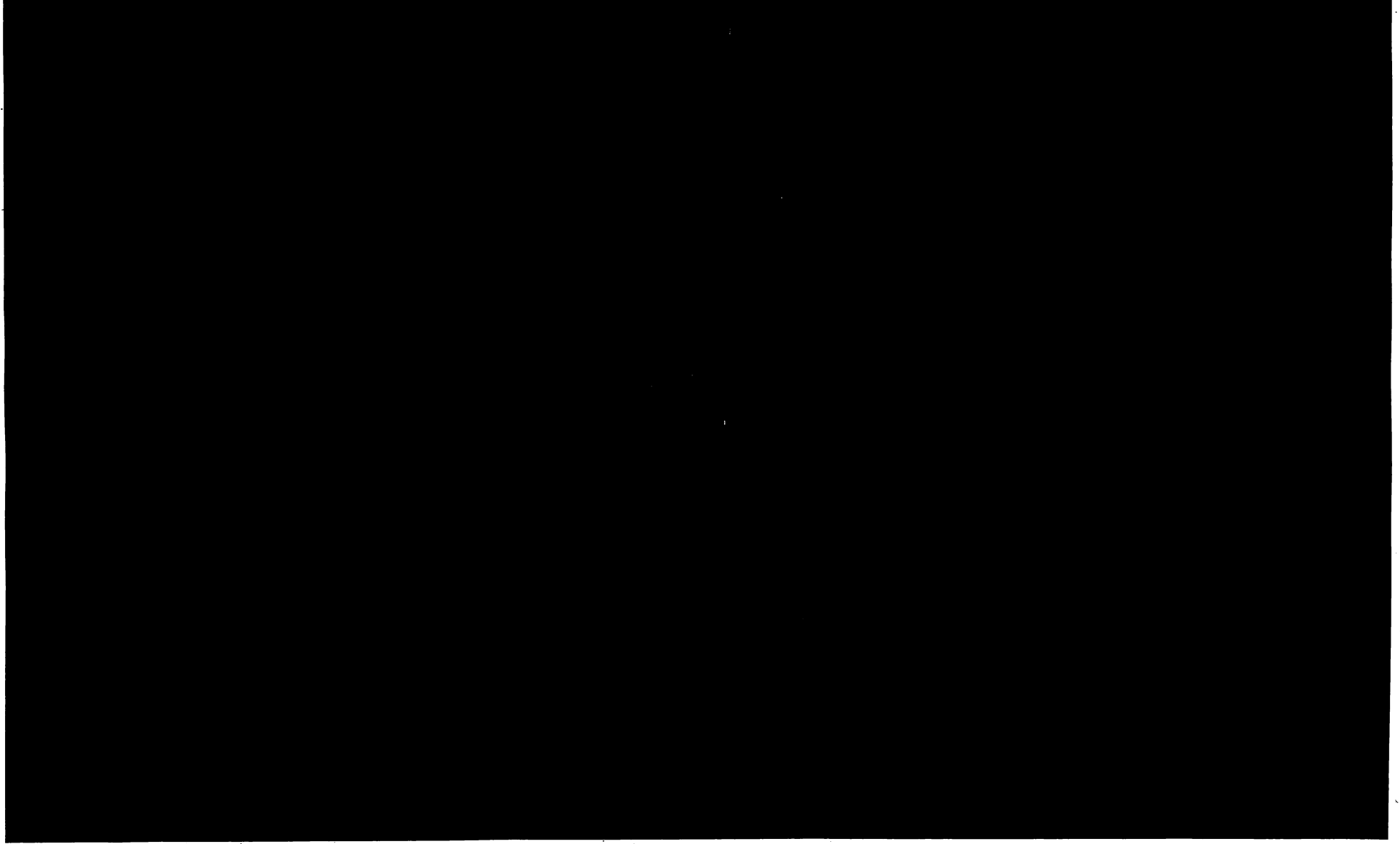
疫学関連調査実施実績(4月23日 0:00現在)



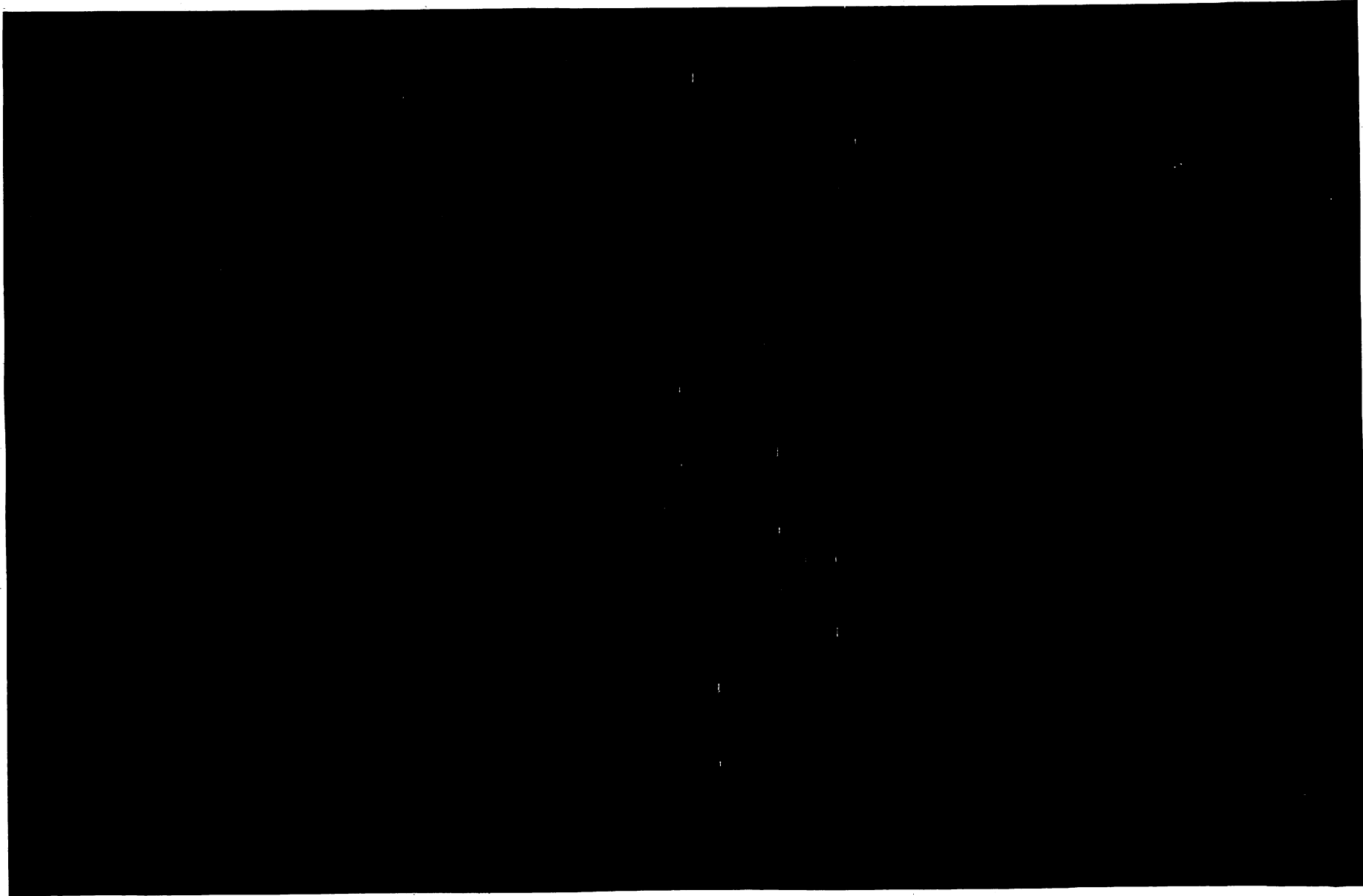
1 例目疫学フロー



2例目疫学フロー



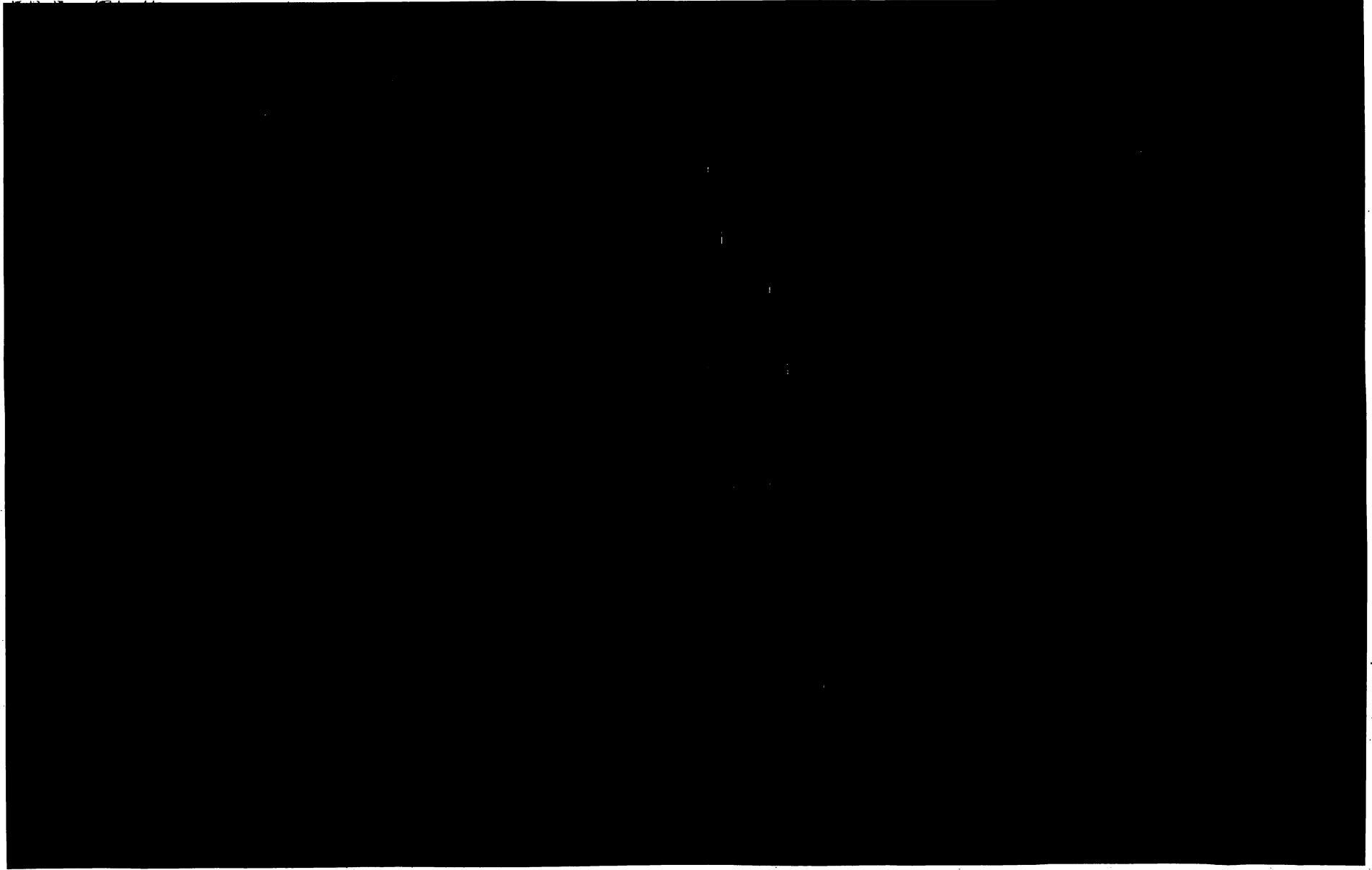
3例目疫学フロー



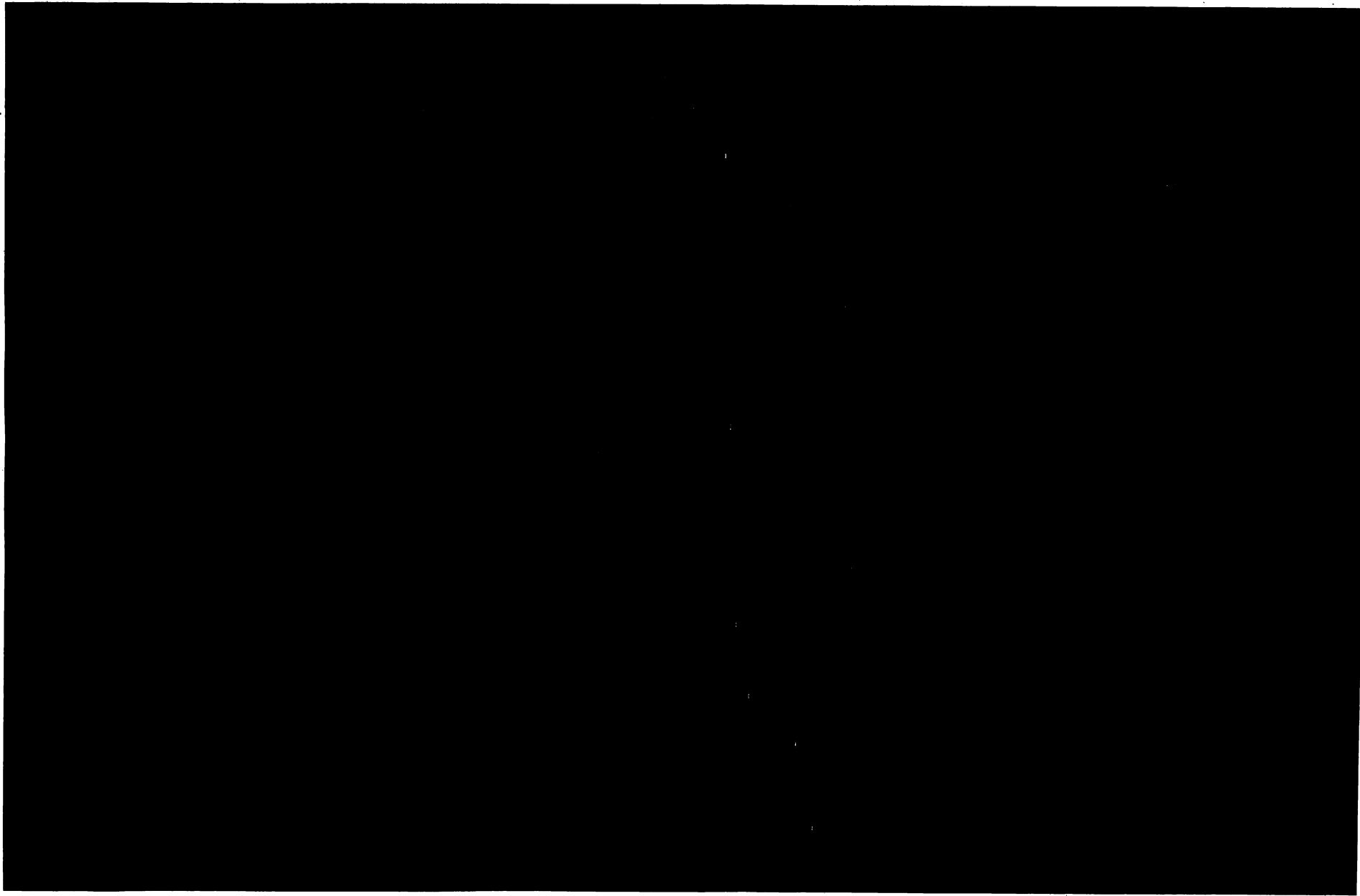
4例目疫学フロー



5 例目疫学フロー



6例目疫学フロー



7例目疫学フロー

近年の各 での口蹄疫発生事例における方疫対応

	発生状況	防疫対応	備考
英国	発生: 2001年2月～9月 タイプ: O型 発生数: 2,026件(豚・牛・羊)	殺処分: 発生農場の殺処分、リスクが高い疫学関連農場の殺処分(殺処分頭数403万頭 うち牛60万頭、羊330万頭、豚14万頭、山羊2千頭) ゾーン設定: プロテクションゾーン3km(移動制限)、サーベイランスゾーン10km(発生当初は、上記に加え、発生と同時にグレートブリテン全土がコントロールエリアとして設定され、家畜の移動禁止) ワクチン接種: なし 処分方法: 農場で殺処分後、埋却、焼却、レンダリング	2002年1月 ワクチン非接種清浄国ステータス復帰
	発生: 2007年8月～9月 タイプ: O型 発生数: 8件(牛・羊)	殺処分: 発生農場の殺処分、リスクが高い疫学関連農場の殺処分(殺処分頭数2160頭 うち牛: 982頭、豚 1128頭、羊43頭、山羊7頭) ゾーン設定: プロテクションゾーン3km、サーベイランスゾーン10km、後に20km(移動制限) ワクチン接種: なし 処分方法: 農場で殺処分後、焼却	2008年2月 ワクチン非接種清浄国ステータス復帰
台湾	発生: 1997年3月～1999年4月 タイプ: O型 発生数: 1997年は不明。1998年1月～1999年4月(最終発生)まで12件(豚)	殺処分: 発生農場の殺処分(1997年7月末までに6147農場の豚385万頭を淘汰) ゾーン設定: プロテクションゾーン3km、サーベイランスゾーン6km(移動制限) ワクチン接種: 1997年5月から、すべての偶蹄類家畜への接種開始 処分方法: 電殺・薬殺、埋却、焼却、レンダリング	1997年3月 ワクチン非接種清浄国ステータス取消 (2003年5月、接種清浄国ステータスに復帰)
	発生: 2009年2月～2010年2月(継続中) タイプ: O型 発生数: 9件(豚)	殺処分: 発症豚等の淘汰(豚983頭を淘汰) ゾーン設定: サーベイランスゾーン3km(もしくは1km) ワクチン接種: 発生農場周辺の農場に対して緊急ワクチン接種 処分方法: 不明	2009年2月 ワクチン接種清浄国ステータス取消
韓国	発生: 2000年3月～2000年4月 タイプ: O型 発生数: 15件(牛)	殺処分: 発生農場の殺処分(殺処分頭数: 牛1,989頭、豚74頭、山羊144頭、しか9頭) ゾーン設定: プロテクションゾーン10km、サーベイランスゾーン20km(移動制限) ワクチン接種: 緊急ワクチン接種実施 処分方法: 埋却処理、射殺・薬殺	2001年8月 ワクチン非接種清浄国ステータス復帰
	発生: 2002年5月～2002年6月 タイプ: O型 発生数: 16件(豚・牛)	殺処分: 発生農場と近隣農場(殺処分頭数: 牛1,372頭、豚158,708頭、山羊42頭、しか33頭) ゾーン設定: プロテクションゾーン3km、サーベイランスゾーン10km(移動制限) ワクチン接種: なし 処分方法: 埋却処理、射殺・薬殺	2002年11月 ワクチン非接種清浄国ステータス復帰
	発生: 2010年1月～2010年3月 タイプ: A型 発生数: 7件(牛・しか) 発生: 2010年4月(継続中) タイプ: O型 発生数: 8件(牛・山羊・豚)	殺処分: 発生農場と疫学関連農場、周辺500m農場(O型事例では、周辺3km農場まで拡大) (A型事例における殺処分頭数: 牛2,905頭、豚2,593頭、山羊46頭、しか52頭) (O型事例5例目までの殺処分頭数: 牛7,473頭、豚22,003頭、山羊108頭、しか85頭) ゾーン設定: リスクゾーン3km、サーベイランスゾーン10km(移動制限) ワクチン接種: なし 処分方法: 埋却処理、射殺・薬殺	2010年1月 ワクチン非接種清浄国ステータス取消

平成 22 年 4 月 28 日

今後の防疫対応について（牛豚等疾病小委員会）

- 1 口蹄疫の発生に伴い、感染農場の摘発と感染動物の殺処分による本病の清浄化を進めているところ。
 - ・ 移動制限区域外での発生（1例）
 - ・ 我が国で初となる豚での発生（1例）が確認されたものの、発生農場のほとんどはそれぞれ概ね半径 1 km 程度の範囲に限られているところ。
- 2 一方、これらの発生例については、
 - ・ 移動制限区域外での発生は、疫学関連農場として確認を進めた結果発見されたものであること
 - ・ 豚での発生は、現時点では疫学的関連は不明であるものの、感染拡大につながる豚の出荷は認められておらず、また、直ちに自衛殺が行われていることなどから、直ちに現在の対策の有効性を否定するものとは考えにくい。
- 3 このため、
 - ・ 今回発生が確認された大規模系列農場については、九州地方のすべての関連農場を法に基づく隔離下におきつつ、立入検査による清浄確認を進め、
 - ・ 豚の感染が確認された飼養農場については、徹底した疫学調査による感染経路の究明を早急に進めることにより、今後の清浄化の推進に万全を期すこととする。
- 4 ただし、
 - ・ 疫学的関連が不明な遠隔地での続発
 - ・ 豚での更なる感染の拡大が認められた場合は、
 - ・ 移動制限・搬出制限地域の拡大（～50km）等の新たな防疫対策の適用を検討することとする。

プレスリリース

平成 22 年 4 月 27 日
農 林 水 産 省口蹄疫疫学調査チームの現地調査及び第1回検討会の開催
について

○口蹄疫疫学調査チームの現地調査、現地調査に先立った事前打ち合わせ及び第1回検討会を、4月29日（木曜日）に宮崎県下において開催します。

○また、現地調査に先立った事前打ち合わせ及び検討会は非公開ですが、冒頭カメラ撮影は可能です。現地調査の同行取材は、本病のまん延を引き起こすおそれもあることから、厳に慎むよう御協力をお願いします。

概要

宮崎県下で発生した口蹄疫の感染経路等を調査するため、口蹄疫疫学調査チームによる現地調査を行うとともに、宮崎県における口蹄疫の発生状況や疫学調査の進め方について検討会を開催します。

開催日時及び場所

(1) 日時

平成 22 年 4 月 29 日（木曜日）10 時 00 分～現地調査に先立った事前打ち合わせ
15 時 30 分～検討会

(2) 場所

宮崎農政事務所大会議室（宮崎県 宮崎市 老松 2 丁目 3 番 17 号）

検討会の内容

- (1) 宮崎県における口蹄疫の発生状況について
- (2) 口蹄疫の疫学調査の進め方について
- (3) その他

取材に関するお願い

・現地調査に先立った事前打ち合わせ及び検討会は非公開ですが、冒頭カメラ撮影は可能です。

・当日の 9 時 45 分から宮崎農政事務所大会議室において報道関係者の皆様に当日のスケジュール等について担当から御説明することとしています。取材に当たっては、その場の指示に沿って行っていただくようお願いいたします。

(1 / 2)

- ・現地調査の同行取材及び宮崎県が実施している防疫作業現場周辺での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれもあることから、厳に慎むよう御協力をお願いします。
- ・お問い合わせは、九州農政局消費・安全部安全管理課までお願いいたします。

＜添付資料＞

- ・ 委員名簿

お問い合わせ先

九州農政局消費・安全部安全管理課

担当者：牧尾、小樋（こひ）

代表：096-353-3561（内線 4530）

ダイヤルイン：096-353-7600

農林水産省消費・安全局動物衛生課

担当者：伏見、嶋崎

代表：03-3502-8111（内線 4581）

ダイヤルイン：03-3502-5994

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>

口蹄疫に関する疫学調査チーム委員名簿

あか し ひろ おみ
明 石 博 臣

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

くろ き あき ひろ
黒 木 昭 浩

宮崎県延岡家畜保健衛生所衛生課主幹

すえ よし ます お
末 吉 益 雄

(国) 宮崎大学農学部獣医学科准教授

つ だ とし ゆき
津 田 知 幸

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究所企画管理部長

つ 井 とし ゆき
筒 井 俊 之

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究所疫学研究チーム長

もり た てつ お
森 田 哲 夫

(国) 宮崎大学農学部畜産草地科学科准教授

(敬称略、五十音順)